

授業科目名： 言語学入門	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 栗田 奈美
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：言語の構造と分析方法を学ぶ 到達目標：言語の構造に関する基礎的な内容について、説明することができる。言語学の変遷について、説明することができる。特定の言語を客観的に分析することができる。			
授業の概要 私たちが日常生活で使用している「言語」とはどのようなものか、また、「言語学」とは何を研究する学問なのかについて学ぶ。具体的には、日本語を対象に「言語」の構造を説明し、それらを客観的に分析する方法を紹介する。			
授業計画 第1回：ガイダンス・言語とは 第2回：言語学の基礎知識 第3回：世界の諸言語と言語の類型 第4回：音声学　音声学とは・日本語の音声の特徴・超文節素 第5回：音韻論　音韻論とは・日本語の音素・母音の無声化 第6回：形態論（1）　形態素とは・語構成 第7回：形態論（2）　日本語述語の活用 第8回：統語論（1）　統語論とは 第9回：統語論（2）　チョムスキーの言語理論 第10回：意味論（1）　意味論とは・語の意味 第11回：意味論（2）　句の意味・文の意味 第12回：語用論（1）　談話における文の意味・発話行為 第13回：語用論（2）　言語、文化、思考・認知言語学 第14回：まとめ 第15回：期末試験と振り返り			
テキスト 原沢伊都夫『日本語教師のための入門言語学 - 演習と解説 - 』スリーエーネットワーク			
参考書・参考資料等 町田健・靱山洋介『よくわかる言語学入門 - 解説と演習 - 』バベル・プレス			

風間喜代三・上野善道・松村一登・町田健『言語学 第2版』東京大学出版会

学生に対する評価

授業への参加度：30%、課題：30%、期末試験：40%

授業科目名： 日本語学入門		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 志賀里美
				担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
日本語の音声と音韻、形態論、統語論、意味論、語用論といった分野の知識を通して、日本語のコミュニケーションの主要なツールである「日本語の構造」について理解する。講義で指摘された現象を自らの言語体験の中から具体的に探し、分析を試みる。プリントに示された「日本語課題」について、的確に答えることができる。				
授業の概要				
日本語学の各分野を理解し、その有効性を通して、現代日本語の音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論など各々の領域を理解する力を培う。				
授業計画				
第1回：言語とは 言語的コミュニケーション				
第2回：日本語の特質 日本語と外国語 言語類型論				
第3回：日本語音韻論（1）母音・子音				
第4回：日本語音韻論（2）日本語の音素と調音				
第5回：日本語形態論（1）形態素・語・語種				
第6回：日本語形態論（2）機能形態素				
第7回：日本語統語論（1）文と文節文法・品詞				
第8回：日本語統語論（2）格文法				
第9回：日本語統語論（3）主題と情報				
第10回：日本語意味論（1）辞書・意義素・上位語・下位語・同位語				
第11回：日本語意味論（2）比喩の分類・認知				
第12回：日本語語用論（1）会話と発話機能・発話行為				
第13回：日本語語用論（2）協調の原理				
第14回：日本語と社会 ジェンダーと日本語				
第15回：日本語と社会 位相語・役割語				
定期試験				
テキスト				
プリント配布				
参考書・参考資料等				

庵功雄『新しい日本語学入門 ことばのしくみを考える 第2版』スリーエーネットワーク

学生に対する評価

定期試験

授業科目名： 日本語文法		教員の免許状取得のための 必修科目		単位数： 2単位		担当教員名： 栗田 奈美	
						担当形態： 単独	
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）					
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：日本語文法を客観的に見る 到達目標：体系的な文法知識をもとに、日本語を客観的に分析することができる。日本語の文法をわかりやすく説明することができる。							
授業の概要 現代日本語の文法を体系立てて学び、今まで意識せずにいた規則を整理するとともに、それをわかりやすく説明する練習を行う。							
授業計画 第1回：ガイダンス・品詞分類 第2回：日本語文の構造・主題化 第3回：自動詞と他動詞 第4回：ヴォイス（1）受身文 第5回：ヴォイス（2）使役文とその他のヴォイス 第6回：テンス（1）絶対テンスと相対テンス 第7回：テンス（2）テンス以外のタ形 第8回：アスペクト（1）「～ている」と「～である」 第9回：アスペクト（2）金田一の動詞分類 第10回：ムード（1）対事的ムードと対人的ムード・断定と意志のムード 第11回：ムード（2）注意すべきムードの用法 第12回：複文の構造（1）名詞修飾節・補足節 第13回：複文の構造（2）副詞節・並列節 第14回：まとめ 第15回：期末試験と振り返り							
テキスト 原沢伊都夫『考えて、解いて、学ぶ日本語教育の文法』スリーエーネットワーク							
参考書・参考資料等 益岡隆志・田窪行則『基礎日本語文法 - 改訂版 - 』くろしお出版 山田敏弘『国語教師が知っておきたい日本語文法』くろしお出版							
学生に対する評価 授業への参加度：30%、課題・小テスト：30%、期末試験：40%							

授業科目名： 日本文化基礎Ⅶ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 野崎 有以
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
・日本語の言い回しや意味を正確に把握し、それらを習得することによって、文章表現力を高める。 ・詩に触れることによって、日本語の語彙力を磨く。 ・担当教員や受講生による作品の講評を行うことによって、コミュニケーション能力を高める。			
授業の概要			
授業形態は、講義形式ではあるものの、ディスカッションを積極的に取り入れながらすすめていく。まず作品を鑑賞し、詩に親しむことからスタートする。それから、実際に自分で詩や短編小説を書き、担当教員と受講生が講評するという形式をとる。			
授業計画			
第1回：イントロダクション。			
第2回：詩とは何か。漢字や単語を分解し、まず詩を書いてみる。			
第3回：作品の提出（漢字を分解した作品）。作品の講評。			
第4回：「詩」という言葉が日常生活のこういった場面で用いられているかについて考える。			
第5回：誰にでも開かれた民衆文芸としての詩を考える。			
第6回：日本の詩作品を鑑賞する（近代詩）。			
第7回：日本の詩作品を鑑賞する（現代詩）。			
第8回：初等中等教育の教科書における詩の扱いについて考える。			
第9回：詩についての小レポートを提出し、ディスカッションする。			
第10回：即興で詩作品を書いてみる（テーマは授業内で提示。授業内で15分ほど時間をとる）。 即興作品の講評。			
第11回：海外の詩作品を鑑賞する①英米。			
第12回：海外の詩作品を鑑賞する②東欧・ロシア。			
第13回：授業を通して詩に対する考え方がどう変化したかについてディスカッションする。			
第14回：作品の提出（テーマ自由）。作品の講評①。			
第15回：作品の講評②（前回取り上げられなかった分）。			
テキスト			
レジュメおよび資料は毎回こちらで用意したものを配布する。			

参考書・参考資料等

吉野弘『詩の楽しみ―作詩教室』（岩波書店、1982年）。

吉野弘『現代詩入門 新版』（青土社、2014年）。

茨木のり子『詩のころを讀む』（岩波書店、1979年）。

谷川俊太郎、斎藤次郎、佐藤学『こんな教科書あり？ 国語と社会科の教科書を読む』（岩波書店、1997年）。

学生に対する評価

提出物[詩作品]（80％）、小レポート・リアクションペーパー（20％）

授業科目名： 日本文化基礎Ⅷ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 野崎 有以
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
・日本語の言い回しや意味を正確に把握し、それらを習得することによって、文章表現力を高める。 ・文芸作品（主に短編小説）に触れることによって、日本語の読解力を磨く。 ・詩と散文の違いを踏まえたうえで、ある程度の分量の創作ができるようになる。 ・担当教員や受講生による作品の講評を行うことによって、コミュニケーション能力を高める。			
授業の概要			
授業形態は、講義形式ではあるものの、ディスカッションを積極的に取り入れながらすすめていく。まず作品を鑑賞し、作品に親しむことからスタートする。それから、実際に自分で短編小説を書き、担当教員と受講生が講評するという形式をとる。			
授業計画			
第1回：イントロダクション。 第2回：詩と散文の違いについて。 第3回：長編小説と短編小説の違いについて。 第4回：短編小説の特徴やその文学的意図について。 第5回：短編小説の鑑賞（日本文学）近代 第6回：短編小説の鑑賞（日本文学）近代および現代 第7回：初等中等教育の教科書における小説作品について。 第8回：エッセイの鑑賞。 第9回：エッセイを提出し、講評する。 第10回：短編小説の鑑賞（海外文学）英米文学 第11回：短編小説の鑑賞（海外文学）東欧・ロシア 第12回：さまざまなジャンルの作品の鑑賞（家庭小説）。 第13回：さまざまなジャンルの作品の鑑賞（女性文学）。 第14回：短編小説作品の講評（1回目） 第15回：短編小説作品の講評（2回目：前回の授業で取り上げられなかった分）			
テキスト			
レジュメおよび資料は毎回こちらで用意したものを配布する。			

参考書・参考資料等

本田勝一『新版 日本語の作文技術』（朝日新聞出版、2015年）。

堀裕嗣『国語科授業づくり10の原理・100の言語技術 義務教育で培う国語学力』（明治図書出版、2016年）。

学生に対する評価

提出物[短編小説、エッセイ]（80%）、リアクションペーパー（20%）。

授業科目名： 日本文化特講Ⅲ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐谷 眞木人
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
文学作品を研究するための方法について学ぶ。到達目標は、さまざまな文学研究の方法を知り、自ら研究する際に目的に対して最適な方法を選択し、進んで研究することができるようになること。論文を読み、その内容を要約し、自らの研究に批判的に役立てることができること。研究計画を立案し、さまざまな先行研究を調査し、研究の方向を定めることができること。			
授業の概要			
日本文学を研究するための様々な技法を、さまざまな文学作品からマンガに至る幅広いテキストをもとに学ぶ。文学作品とは何かから始め、本文研究、内容の分析、歴史的考察、影響関係、享受史などを学ぶ。また、研究手法として成立論や作者論、物語論、表現論などさまざまな分析手法を知る。文学を研究するにあたって、どのようなアプローチが可能かを選択し、自ら進んで研究する能力を身につけるための講義である。そのほかの分野の研究においても役に立つ講義を心がけたい。			
授業計画			
第1回：イントロダクション 文学とは何か。作品と出会うということ			
第2回：作者・成立・社会：藤子F不二雄をめぐって			
第3回：メディアとしての書物とその意義			
第4回：物語と小説：「人生の物語」をめぐって			
第5回：世界理解のためのキャラクターと「作られたイメージ」			
第6回：世界の物語化と二元論			
第7回：文学とジェンダー			
第8回：植民地と文学：支配される側の苦悩と表現			
第9回：死はどのように描かれているのか：戦争と文学をめぐって			
第10回：作者の欲望と読者の欲望：「感動」をめぐって			
第11回：「恋愛」と文学			
第12回：文学の社会的影響と評価			
第13回：芸術性と大衆性は両立するのか			
第14回：二次創作をめぐって			
第15回：総括と確認			
期末レポート			

テキスト

適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

テリー・イーグルトン『文学とは何か』（岩波書店）

学生に対する評価

授業内課題 30% 毎回のコメントシート 20% 期末レポート 50%

授業科目名： 日本文化特講Ⅸ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 瀧口 雅仁 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 近現代の大衆文化から学ぶ表現法 ・先人達が残してきた、近代の主な表現のあり方を分析し、効果的な表現方法を習得。 ・表現が各時代の影響を受けている(受けてきた)ことと、その表現の形式と結果を説明する。 ・今、置かれている状況下で、自分にとっての有効な表現形式を判断し、具体的に示す。			
授業の概要 近現代の大衆文化の中から、時代を反映してきた大衆芸能に主な焦点をあて、表現の発し手（演者）が「何を」「どのように」「効果的に」表現したのか。その表現方法を理解し、今の自分であれば「何を」「どのように」「他者に伝える」か。その効果的な自己表現の方法を学ぶことを目的とする。同時に日本語教育等に必要な日本文化の知得も目的とする。 また要所で、論作文の書き方や自己PR、セールスポイントといった、自己の表現の表し方（書き方）なども扱う。			
授業計画 第1回：音声表現概史、日本古来の音声表現と西洋音楽の流入 第2回：速記術が与えた表現方法の変化と録音技術の流入 第3回：表現を変えた落語の姿、小さんと圓遊、そして夏目漱石 第4回：演説歌は社会に何をどのように訴えたのか① 第5回：演説歌は社会に何をどのように訴えたのか② 第6回：松井須磨子と近代女性による表現の形 第7回：浪花節にみる近代日本の声 第8回：戦前の音声表現と戦後の音声表現 第9回：ラジオ放送と演説、玉音放送 第10回：戦後日本の庶民の声と表現 第11回：フォークソングに見る表現方法① 第12回：フォークソングに見る表現方法② 第13回：現代の音声表現①（声優とボーカロイドなど） 第14回：現代の音声表現②（効果音や発車メロディなど） 第15回：まとめ（効果的な自己表現方法について総合的に）			

テキスト
特に指定しない。逐次、プリントを配布する。
参考書・参考資料等
瀧口雅仁『演説歌とフォークソング』（彩流社）
学生に対する評価
講義への出席状況と期末レポートを総合的に判断して評価する。 出席は毎回取る（授業参加とコメントシート50%、期末レポート50%）。

授業科目名： 日本文化基礎Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐谷 眞木人
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
日本古典文学の歴史的展開について、時系列に従って講義する。「物語」「和歌」「連歌」「俳諧」「説話」「お伽草子」「浮世草子」「読本」などがどのような表現であるか説明できるようになること。また、「古代」「中世」「近世」といった大きな枠組みで、それぞれがどのような時代であったかを歴史的背景と関連付けて、文学作品の特質を説明できること。			
授業の概要			
日本古典文学の歴史は文章表現の歴史である。日本語がどのようにして文字と出会い、記述されたか。文章化された日本語はどのように変化し、また、記述内容の多様化と深化はどのように進んだか。古典文学作品は何を主題化して表現されてきたか。個別の作品を歴史的展開の中に位置づけ、それが先行作品の影響下にあることと、後の作品に影響を与えていることを理解することが「文学」を「歴史」として捉える道筋である。			
授業計画			
第1回：イントロダクション：東アジアの中の日本語 「神話」の成立と『古事記』『日本書紀』をめぐって			
第2回：日本語、文字と出会う。表記としての万葉仮名と『万葉集』			
第3回：「かな」と「和歌」の成立——『古今和歌集』と『土佐日記』をめぐって			
第4回：和歌から物語へ——『伊勢物語』『大和物語』を中心に			
第5回：物語史の中の『源氏物語』			
第6回：『物語』の多様性と歴史性			
第7回：カタカナの展開／説話集の時代——『今昔物語集』の世界観			
第8回：軍記物語の展開と『平家物語』			
第9回：「能」とは何か			
第10回：お伽草紙をめぐって			
第11回：和歌・連歌・俳諧——『おくのほそ道』を読む			
第12回：近世文学の展開と井原西鶴			
第13回：上田秋成と読本			
第14回：歌舞伎の展開			
第15回：まとめ			

定期試験
テキスト 適宜資料を配布する。
参考書・参考資料等 小峯和明編『日本文学史』（吉川弘文館）
学生に対する評価 各回のコメントシート 20％・授業内課題 30％・期末試験 50％

授業科目名： 日本文化基礎Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 中村 晋吾
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 近代文学の流れを把握しながら、それぞれの作家がどのような特徴を持っているのかについて理解する。			
授業の概要 本講義は、日本の近現代文学がどのような態度でどのような問題に相対してきたかについて、具体的な作品読解によってアプローチすることを目的としたものです。日本近代文学史を通覧し、自然主義と反自然主義、白樺派、新感覚派、プロレタリア文学、戦後文学などの潮流を中心として概説します。近現代文学を考える上で特に重要な作家である夏目漱石、芥川龍之介、宮沢賢治、太宰治をとりあげ、その思想と代表的作品を概説した上で、近代がどのような時代であり、人間に対してどのような影響を与えるのかを考えます。			
授業計画 第1回：ガイダンス、日本近代文学の始まり 授業の進め方についての説明と、講義全体の導入として日本近代文学史を通覧。 二葉亭四迷、尾崎紅葉、樋口一葉などの作家について。 第2回：日本近代文学の始まりと自然主義 島崎藤村、田山花袋などの作家とその作品、日本における自然主義文学の傾向について 第3回：反自然主義 自然主義文学以外の当時の文学の中で、特に永井荷風や谷崎潤一郎のような「耽美派」について。 第4回：夏目漱石① 「現代日本の開化」の「皮相上滑りの開化」と「私の個人主義」によって、個人としての生き方について。 第5回：夏目漱石②「それから」 漱石が近代の個人をどのように具体的に描いたかについて、代表作「それから」の代助に着目して考察。 第6回：森鷗外 鷗外の生涯と「舞姫」から「青年」、晩年の時代小説へという流れ。 第7回：芥川龍之介 大正時代の文学を象徴する芥川龍之介の生涯と作品の中で、「王朝物」「安吉物」などの性質について。 第8回：志賀直哉 初期作品の傾向から、「暗夜行路」執筆、戦後の大家としての活躍まで。 第9回：新感覚派について 横光利一、川端康成らの新感覚派文学の作品とその革新的性質、傾向。 第10回：プロレタリア文学をめぐって 小林多喜二、中野重治、葉山嘉樹らの作品や活動等について。 第11回：宮沢賢治 賢治の生涯と代表作「注文の多い料理店」、「銀河鉄道の夜」などについて。 第12回：文芸復興期 昭和十年代の「文芸復興」と言われる中で登場した作家について。特に岡本かの子と林芙美子を中心に。			

第13回：太宰治 太宰治の生涯と作品について。 第14回：戦後の文学 野間宏、大江健三郎ら第一次、第二次戦後派と第三の新人について。 第15回：現代の文学 村上春樹、小川洋子ら現代に活躍する作家について。 定期試験 教場レポート形式
テキスト 奥野健男『日本文学史 近代から現代へ』（中公文庫）
参考書・参考資料等 吉本隆明『言語にとって美とは何か 上・下』（角川文庫）
学生に対する評価 ・毎授業ごとに課す小問題とミニ・レポート（30%）。 ・教場テスト（持ち込み可）（70%）。 文学史上において着目した任意の問題について2000字程度でまとめてもらいます。 具体的な資料を挙げながらまとめられているかどうかを基準にします。

授業科目名： 日本文化基礎Ⅲ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐谷 眞木人
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
日本古典文学の物語から作品を選んで読み、その内容・主題・構成・人物描写等について理解する。到達目標は、古典の物語の範囲と主要な作品について、自分の言葉で説明することができるようになること。物語文学を読む力を身につけ、自ら進んで読み解く読解力を習得すること。物語の内容を通して、日本人の考え方について自分の意見を述べるができること。			
授業の概要			
日本古典文学における物語とは何かという問題意識をスタートラインとして、「広義の物語」として、軍記物語も扱う。物語られるべき人物や、その描写のされ方にも留意したい。具体的には『伊勢物語』『落窪物語』『とりかへばや物語』『曽我物語』などを取り上げたい。それらを読むことを通して、古典の物語に対する理解を深め、物語を通して日本人の思考/嗜好のあり方を考えてほしい。			
授業計画			
第1回：イントロダクション：物語とは何か。狭義の物語と広義の物語。歴史的展開と現代社会。			
第2回：伊勢物語を読む（1）在原業平について			
第3回：伊勢物語を読む（2）歌と物語の結びつき			
第4回：伊勢物語を読む（3）禁忌の侵犯			
第5回：落窪物語を読む（1）継子いじめとは何か			
第6回：落窪物語を読む（2）女性の役割といじめ			
第7回：落窪物語を読む（3）救世主の登場と報復			
第8回：落窪物語を読む（4）幸福な結末			
第9回：とりかへばや物語を読む（1）「男性らしさ」「女性らしさ」という縛りについて			
第10回：とりかへばや物語を読む（2）女性が男性として生きることの困難			
第11回：とりかへばや物語を読む（3）物語の展開と結末			
第12回：曽我物語を読む（1）軍記物語とは何か			
第13回：曽我物語を読む（2）敵討ちという主題の歴史的展開			
第14回：曽我物語を読む（3）曽我物語はなぜ読み継がれたのか			
第15回：まとめと振り返り			
定期試験			

テキスト

適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

阿部俊子訳注『伊勢物語（上下）』（講談社学術文庫）

室城秀之訳注『新版 落窪物語（上下）』（角川ソフィア文庫）

新編日本古典文学全集『住吉物語・とりかへばや物語』（小学館）

坂井孝一『曾我物語の史実と虚構』（吉川弘文館 歴史文化ライブラリー）

学生に対する評価

授業内課題 30% 毎回のコメントシート 20% 期末試験 50%

授業科目名： 日本文化基礎Ⅳ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐谷 眞木人
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
『源氏物語』を、和歌と物語の関係や、成立当時の社会背景に留意しつつ講読する。到達目標は、『源氏物語』の内容を理解し、概略を自ら説明できるようになること。平安時代の貴族社会における美意識や宗教観を知り、『源氏物語』との関連において、人物描写や事件の表現の背景をわかりやすく説明できること。男女関係や家族関係の歴史的変化を理解し、現代社会との共通点や相違点について述べるができること。			
授業の概要			
『源氏物語』の内容を理解するだけでなく、内容について自分なりの評価ができることを目的とする。また、様々な角度から物語の表現にアプローチする方法と思考を身につけてほしい。 授業形態は講義形式であるが、各回テキストを配布し、その内容について分析的に読解することを中心とするので、事前に配布資料をきちんと読み込んで来ること。予習復習シートを配布し、それに記述してもらうことで、講義内容の理解度を確認しながら進める。			
授業計画			
第1回：『源氏物語』の時代——西暦1000年の社会と作者の立場			
第2回：「桐壺巻」——『源氏物語』の発端			
第3回：青年の恋——貴族社会と女性たち			
第4回：「若紫巻」を読む			
第5回：朧月夜の君の登場と政治的背景——「花宴巻」を読む			
第6回：生霊の祟り——「葵巻」を読む			
第7回：「賢木巻」を読む			
第8回：明石の君と紫の上			
第9回：玉鬘の登場			
第10回：玉鬘と近江の君			
第11回：女三の宮と柏木「若菜巻」を読む			
第12回：柏木の死と夕霧の家庭「柏木巻」から「夕霧巻」へ			
第13回：紫の上の死去			
第14回：幻の巻とその後			
第15回：まとめと振り返り			

定期試験
テキスト 適宜資料を配布する。
参考書・参考資料等 『源氏物語事典』
学生に対する評価 授業内課題 30%・各回授業のコメントシート 20%・期末試験 50%

授業科目名： 日本文化基礎Ⅴ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 中村 晋吾
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 日本近代文学において、「食べること」をめぐる問題は、ことに思想としての「生命主義」的傾向が強くなり、また身体的、生理的なものが主題化される大正時代後期以降に、様々な形をとりながら顕在化してくる。この主題は、他者を殺さずにはいられない生命として他者にどのように向かい合うか、という存在論的な問題、新陳代謝する生命としての身体論的な問題、「食べる」対象や食事の場をめぐる社会学的、あるいは文化人類学など、様々な角度からの考察が可能である。本講義では、近代文学のいくつかの作品から、人間にとって重要な要素である「食べること」について考察する。これを通じて、一つのテーマの視座から様々な作家や作品について読み継いでいくことの意義を学ぶことを目的とする。			
授業の概要 宮沢賢治、岡本かの子、林芙美子、北條民雄、太宰治、埴谷雄高の作品を読み、その中に「食べること」の問題がどのように描かれているのかを読み取り、「食」というテーマでどのように近代文学をくくることができるかを考える。			
授業計画 第1回：ガイダンス・総説 「食」と日本近代文学について、どのようなアプローチが可能か、などについて。 第2回：宮沢賢治の「食」 1 賢治の思想、宗教などの問題と「食」 賢治が依拠した国柱会の田中智学の思想を契機に「食」の問題を考え、「蜘蛛となめくちと狸」などを中心に、それが童話においてどう昇華されているかを考える。 第3回：宮沢賢治の「食」 2 「ビジテリアン大祭」の読解（前編） 「ビジテリアン大祭」という作品を読み、カーライルとの関係や「衣装」観を中心に、その特徴についておさえる。 第4回：宮沢賢治の「食」 3 「ビジテリアン大祭」の読解（後編） 「ビジテリアン大祭」の中の「食」についての議論の特徴と賢治の主張についておさえる。 第5回：宮沢賢治の「食」 4 「フランドン農学校の豚」「よだかの星」など 表題の二つの作品について、「食べる・食べられる」関係を軸に考える。 第6回：宮沢賢治の「食」 5 宮沢賢治のその他の作品と「食」 「注文の多い料理店」など、賢治童話に頻出する「食」をめぐる描写を総覧する。 第7回：岡本かの子の「食」 1 かの子と「新陳代謝」 かの子の生涯と仏教観について概説する。 第8回：岡本かの子の「食」 2 「鮎」を読む 短編「鮎」の読解とそこに現れる「食」と、主要なテーマである「新陳代謝」についての考察。 第9回：岡本かの子の「食」 3 「家霊」「食魔」を読む 短編「家霊」と「食魔」の読解と「食」をめぐる人間模様について。 第10回：林芙美子の「食」 1 「放浪記」「幸福の彼方」 林芙美子の生涯とその特徴を踏まえた上で、短編「幸福の彼方」における食べ物の使われ方について考える。			

第11回：林芙美子の「食」 2 「牛肉」「めし」「浮雲」 林芙美子の「牛肉」について読み、さらには晩年の代表作「めし」と「浮雲」における食べ物の使われ方を考える。 第12回：北條民雄の「食」「猫料理」 北條民雄がハンセン病作家として置かれていた状況についておさえ、その中で書かれた「猫料理」における「食」のあり方を考える。 第13回：太宰治の「食」「人間失格」について 太宰という作家の生涯と、自伝的性格である「人間失格」における食事の場面を中心に読解する。 第14回：埴谷雄高の「食」「死霊」について 「死霊」に登場する食物連鎖の場面を巡って、賢治の「ビヂテリアン大祭」との関係を含めて考える。 第15回：総説・現代文学の「食」 講義全体のまとめと現代の「食」をめぐる様々な問題についてまとめ、レポートに向けたレクチャーを行う。 定期試験 教場レポート形式。	テキスト 宮沢賢治『新編 銀河鉄道の夜』（新潮文庫） 岡本かの子『老妓抄』（新潮文庫） 北條民雄『いのちの初夜』（角川文庫）
参考書・参考資料等 なし	学生に対する評価 ・毎授業ごとに課す小問題とミニ・レポート（30%）。 ・教場テスト（持ち込み可）（70%）。文学史上において着目した任意の問題について2000字程度でまとめてもらいます。具体的な資料を挙げながらまとめられているかどうかを基準にします。

授業科目名： 日本文化基礎Ⅵ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中村 晋吾
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 （テーマ） 本講義では、宮沢賢治について、代表作「銀河鉄道の夜」や「ビヂテリアン大祭」を中心に講読し、その生き様、また作品や思想の特徴を概観する。			
（到達目標） 1、賢治の生涯とその作品、思想についての知識を身につける。 2、同時代における社会状況について理解する。 3、1と2について整理し、自分で文章化する力を身につける。			
授業の概要 一九二〇年代から三〇年代前半の、「戦間期」と呼ばれる時代の社会状況を踏まえながら、以下のテーマを軸にして考察する。 1、賢治における「法」と「犯罪」 賢治童話においては、「法」とそこからの逸脱としての「犯罪」についての描写が頻出する。当時の刑法を踏まえたうえで、創作を始める時期の賢治がどのようなヴィジョンを持っていたかを考える。 2、賢治と家父長制 賢治作品において、女性の登場は数少ない。しかし、散文「家長制度」のような、近代の家父長制を批判する作品を通じて、近代における女性の位置を描いている。他に、「泉ある家」などの読解を通して、賢治をめぐる家父長制やジェンダーの問題を考える。 3、賢治とユートピア 賢治作品はユートピア的であるとされるが、これは海外文学におけるユートピアとはかなり異なった性質を持っているといえる。賢治が特に傾倒していたウィリアム・モリスとの共通点・相違点を挙げながら、賢治におけるユートピアの性質を指摘する。			
授業計画 第1回：ガイダンス、宮沢賢治の生涯について 第2回：宮沢賢治の作品について、キリスト教との関係について 第3回：宮沢賢治と詩 第4回：銀河鉄道のユートピア性について（「銀河鉄道の夜」をめぐる考察①） 第5回：《究極の普遍性》への挑戦（「銀河鉄道の夜」をめぐる考察②） 第6回：「本当の幸い」とは何か（「銀河鉄道の夜」をめぐる考察③） 第7回：「論難者」たちの主張について（「ビヂテリアン大祭」をめぐる考察①） 第8回：作品をどう読むか（「ビヂテリアン大祭」をめぐる考察②） 第9回：肉食主義者とは何ものか（「ビヂテリアン大祭」をめぐる考察③） 第10回：賢治童話における「法」と「犯罪」（「戦間期」と賢治①） 第11回：賢治童話と家父長制（「戦間期」と賢治②） 第12回：「論難者」たちの主張について（「ビヂテリアン大祭」をめぐる考察①） 第13回：作品をどう読むか（「ビヂテリアン大祭」をめぐる考察②） 第14回：賢治童話のユートピア（「戦間期」と賢治③） 第15回：全体の総括（課題） 定期試験			

テキスト 宮沢賢治著『新編銀河鉄道の夜』(新潮文庫) 定価 464 円
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 ・毎授業ごとに課す小問題とミニ・レポート（30％）。 ・教場テスト（持ち込み可）（70％）。文学史上において着目した任意の問題について 2000字程度でまとめてもらいます。具体的な資料を挙げながらまとめられているかどうかを基準にします。定期テストによって評価する。

授業科目名： 漢文Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 鳥海（矢部） 奈都子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 漢文学		
授業のテーマ及び到達目標			
代表的な漢文の講読を通じて、漢文の基礎的な読解力を身につける。			
授業の概要			
古来日本でよく読まれ、現代の高等学校の国語の教科書にも採用されることの多い漢文作品（主に歴史に関するもの）の講読を通じて、漢文訓読（古来日本人が行ってきた漢文に送り仮名や返り点などを付けて日本語として訳読する方法）の技術、重要語や句法、漢文を読む際に必要となる背景知識などを習得しつつ、漢文作品の内容を具体的に理解すること及び中国の歴史に対する興味関心を深めることを目指します。漢文学習歴の有無は問いません。			
授業計画			
第1回：漢文訓読の基本と漢和辞典の使い方を学ぶ			
第2回：『十八史略』 1：『十八史略』について概要を学ぶ			
第3回：『十八史略』 2：著名なエピソードをいくつか選び、重要語や句法、背景知識を確認しながら読む その①			
第4回：『十八史略』 3：著名なエピソードをいくつか選び、重要語や句法、背景知識を確認しながら読む その②			
第5回：『十八史略』 4：著名なエピソードをいくつか選び、重要語や句法、背景知識を確認しながら読む その③			
第6回：『十八史略』 5：著名なエピソードをいくつか選び、重要語や句法、背景知識を確認しながら読む その④			
第7回：『史記』 1：『史記』について概要を学ぶ			
第8回：『史記』 2：「列伝」（天子・諸侯以外の人々の事跡の記述）から一篇ないし二篇を選び、精読する その①			
第9回：『史記』 3：「列伝」（天子・諸侯以外の人々の事跡の記述）から一篇ないし二篇を選び、精読する その②			
第10回：『史記』 4：「列伝」（天子・諸侯以外の人々の事跡の記述）から一篇ないし二篇を選び、精読する その③			
第11回：『史記』 5：「列伝」（天子・諸侯以外の人々の事跡の記述）から一篇ないし二篇を選び、精読する その④			

第12回：『史記』6：「列伝」（天子・諸侯以外の人々の事跡の記述）から一篇ないし二篇を選び、精読する その⑤ 第13回：『史記』7：「列伝」（天子・諸侯以外の人々の事跡の記述）から一篇ないし二篇を選び、精読する その⑥ 第14回：『史記』8：「列伝」（天子・諸侯以外の人々の事跡の記述）から一篇ないし二篇を選び、精読する その⑦ 第15回：まとめと試験
テキスト 授業中に適宜資料を配布する。
参考書・参考資料等 小型の漢和辞典（特に指定なし）。
学生に対する評価 定期試験（80％）、授業時に提出する小レポート等の課題（20％）

授業科目名： 漢文Ⅱ		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 鳥海（矢部） 奈都子
				担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 漢文学		
授業のテーマ及び到達目標				
代表的な漢文の講読を通じて、漢文の基礎的な読解力を身につける。				
授業の概要				
古来日本でよく読まれ、現代の高等学校の国語の教科書にも採用されることの多い漢文作品（主に思想に関するもの）の講読を通じて、漢文訓読（古来日本人が行ってきた漢文に送り仮名や返り点などを付けて日本語として訳読する方法）の技術、重要語や句法、漢文を読む際に必要となる背景知識などを習得しつつ、漢文作品の内容を具体的に理解すること及び中国の思想や文学に対する興味関心を深めることを目指します。漢文学習歴の有無は問いません。				
授業計画				
第1回：漢文訓読の基本と漢和辞典の使い方を学ぶ				
第2回：『論語』 1：孔子および『論語』、儒家思想について学ぶ				
第3回：『論語』 2：重要語や句法、背景知識を確認しながら読む その①				
第4回：『論語』 3：重要語や句法、背景知識を確認しながら読む その②				
第5回：『孟子』 1：孟子について学ぶ				
第6回：『孟子』 2：重要語や句法、背景知識を確認しながら読む その①				
第7回：『孟子』 3：重要語や句法、背景知識を確認しながら読む その②				
第8回：『荀子』：重要語や句法、背景知識を確認しながら読む				
第9回：『老子』 1：老子および道家思想について学ぶ				
第10回：『老子』 2：重要語や句法、背景知識を確認しながら読む				
第11回：『莊子』：重要語や句法、背景知識を確認しながら読む				
第12回：『桃花源記』 1：重要語や句法、背景知識を確認しながら読む その①				
第13回：『桃花源記』 2：重要語や句法、背景知識を確認しながら読む その②				
第14回：『桃花源記』 3：重要語や句法、背景知識を確認しながら読む その③				
第15回：まとめと試験				
テキスト				
授業中に適宜資料を配布する。				
参考書・参考資料等				
小型の漢和辞典（特に指定なし）。				

学生に対する評価

定期試験（80％）、授業時に提出する小レポート等の課題（20％）

授業科目名： 書道 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 水上 晃実
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 書道（書写を中心とする。）		
授業のテーマ及び到達目標 中学校書写の授業における基本的な知識と技能を習得する。			
授業の概要 中学校学習指導要領に基づき、書写授業において楷書および行書の指導が出来る力を養う。			
授業計画 第1回：授業ガイダンスおよび講義「文房四宝について」 第2回：講義および実習「毛筆における姿勢と構え方・用具の扱い方・運筆練習について」 第3回：楷書①「字形の整え方と筆使い・点画の種類」 第4回：楷書②「点画の組み立て・部分の組み立て・外形」 第5回：楷書③「仮名の字形と筆使い」 第6回：楷書④「文字の大きさと配列」 第7回：講義「文字の変遷について」（篆書・隸書・草書・行書） 第8回：行書①「行書の特徴」 第9回：行書②「点画の丸み」 第10回：行書③「点画の連続」 第11回：行書④「点画の形や方向の変化」 第12回：行書⑤「点画の省略」 第13回：行書⑥「筆順の変化」 第14回：行書⑦「行書と仮名の調和」 第15回：自運による作品の制作 定期試験は実施しない。			
テキスト 授業内で臨書用手本を配布する。			
参考書・参考資料等 文部科学省検定済中学校書写教科書			
学生に対する評価 授業内で毎回提出する作品により評価する。			

授業科目名： 書道Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 水上 晃実
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・書道（書写を中心とする。）		
授業のテーマ及び到達目標 書写を指導するにあたり、楷書・行書以外の書体にも触れ、書道の知識を深める。			
授業の概要 篆刻の技術や草書・隸書の運筆方法を習得し、最終的には書聖と称された王羲之の作品に挑戦する。			
授業計画 第1回：授業ガイダンスおよび講義「中学校書写における書初め指導について」 第2回：書初め指導①「画仙紙の使い方」 第3回：書初め指導②「楷書および行書による作品制作」 第4回：篆刻①「道具の理解と書体のデザイン」 第5回：篆刻② デザインを印面に写し彫り始める。 第6回：篆刻③ 印面を潰さないように彫り進める。 第7回：篆刻④ 篆刻を完成させる。 第8回：草書①「運筆練習」 第9回：草書②「和歌を書く」 第10回：隸書①「運筆練習」 第11回：隸書②「作品制作」 第12回：隸書③「作品完成」 第13回：王羲之「楽毅論」臨書① 王羲之の運筆方法を研究し、留意して書き写す。 第14回：王羲之「楽毅論」臨書② 王羲之の字形を正確に捉え、書面を整える。 第15回：王羲之「楽毅論」完成 定期試験は実施しない。			
テキスト 授業内で臨書用手本を配布する。			
参考書・参考資料等 「西脇呉石編纂 文化書道学会指導用手本」（代々木文化学園） 「呉石雲石作品集」 西脇韻石 編集（代々木文化学園）			
学生に対する評価 篆刻作品・授業内で毎回提出する作品・王羲之「楽毅論」臨書作品により評価する。			

授業科目名： 国語科指導法Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐谷 眞木人
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
高等学校において国語の授業を行うための基礎的な知識と方法を身につける。国語の授業がどのような方法で何を教えるのかを理解し、学習指導要領について理解する。また、教材研究の方法を身につけ、学習指導案が作成できるようになる。			
授業の概要			
国語科の授業の目的や方法について実践的に学ぶ授業です。まず、国語の授業の成り立ちや目的について考え、学習指導要領を理解したうえで、個別の授業の構成や教材研究、学習指導案の作成を各自で行い、授業で発表します。			
授業計画			
第1回：導入 国語の授業で何を教えるのか。ディスカッション「今まで受けてきた国語の授業について」			
第2回：学習指導要領解説を読む。国語の授業に求められるもの。			
第3回：教材の研究① 教科書はどのように作られているか。			
第4回：教材の研究② 単元観と教材観 作品の背後を理解し、何を教えるかを定める。			
第5回：教材の研究③ 各回の授業の目的の立て方。テキストの核をとらえる。			
第6回：授業の構成① 導入の仕方。朗読と黙読。読みを通して理解できること。			
第7回：授業の構成② 発問のポイント。答えの導き方。考えさせる技術。			
第8回：授業の構成③ まとめと展開。発展のさせ方。			
第9回：実践講座「音読と朗読」			
第10回：実践講座「国語科におけるICT活用」			
第11回：実践講座「画像や写真、図解の利用の仕方」			
第12回：実践講座「詩歌の授業のポイント」			
第13回：実践講座「小説の授業のポイント」			
第14回：学習指導案の作成① 基本の指導案の書き方。授業の進め方を想定して書く。			
第15回：学習指導案の作成② 発展的学習や授業内課題について考える。			
テキスト			
中学校学習指導要領解説国語編（平成29年告示 文部科学省）			
高等学校学習指導要領解説国語編（平成30年告示 文部科学省）			

参考書・参考資料等

大村はま『教室をいきいきと1・2』（ちくま学芸文庫）

長谷川凜, 丹野健, 内田花, 田川美桜, 中村海人ほか『高校に古典は本当に必要なのか』（文学通信）

学生に対する評価

授業内の発表や提出課題 40% 学習指導案 40% 授業への参加態度 20%

授業科目名： 国語科指導法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 中村 晋吾
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
本講義は、中高国語教員免許状の取得の一環として、国語科を指導する方法について考え、理解することを目的としている。近年は、新カリキュラムの導入にあたり、従来の国語教育の枠組みを超え、新たな国語教育の枠組みの導入が急がれる。特に現代文分野においては、教科の再編も念頭に置きながら、より生徒に積極的に考えさせる指導法を意識していく必要がある。このような現代的な動向を踏まえ、どのような指導を目指していくべきかを問いながら、同時にオーソドックスな指導のあり方をまず身に着けることで、学生が国語科の指導を滞りなく行える能力を養うことを目指す。			
授業の概要			
基本的に二回もしくは三回で一つの授業内容についてのテーマを扱う。学生の積極的な意見を講義中に求めながら、講義の終わりには自分の意見を記入する時間を作り、次の回の冒頭に主だった意見について一覧にし、フィードバックを行う。講義全体の序盤は現代的動向やそれを受けた指導法の総論を行う。中盤では、小説、詩歌、評論文の各ジャンルそれぞれ「読解の方法」と「指導の実践」に分け、左の「講義内容」の丸括弧内の作品を中心にして講義する。前者はオーソドックスな指導のあり方を示し、後者で新たな指導の探求を行う。ディベートでは、「高校野球の球数制限の是非」「大学九月入学の是非」のような、高校生にも身近な問題について、スピーチでは「私の好きなもの」のようなシンプルなテーマについての指導方法を考える。			
授業計画			
第1回：ガイダンス、現代の国語教育を取り巻く状況について			
第2回：「国語」のカリキュラムの変化について			
第3回：「現代の国語」指導実践の方法1 基礎となる指導法			
第4回：「現代の国語」指導実践の方法2 今度、目指される指導のあり方の探求			
第5回：「現代の国語」指導実践の方法2 今度、目指される指導のあり方			
第6回：「文学国語」指導の実践（芥川龍之介 「羅生門」など古典的作品）			
第7回：「文学国語」指導の探求（小川洋子「巨人の接待」など現代作品）			
第8回：「文学国語」「詩歌」の実践と探求（宮沢賢治「永訣の朝」、短歌創作など）			
第9回：「論理国語」（評論文）の指導の実践（山崎正和「水の東西」などかつての定番）			
第10回：「論理国語」（評論文）の指導の探求（大澤真幸、内田樹）			
第11回：「国語表現」授業の方法（ディベート、スピーチ）			
第12回：「国語表現」授業の方法（ディベート、スピーチ）授業の実践			
第13回：「言語文化」授業の方法と実践			
第14回：「古典探求」授業の方法と実践			
第15回：全体のまとめ			
テキスト			

中学校学習指導要領国語編（平成 29 年告示 文部科学省） 高等学校学習指導要領国語編（平成 30 年告示 文部科学省）
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 講義全体を総括し、自分の意見をまとめたレポート（1200 字程度）と模擬授業発表の出来によって評価する。

授業科目名： 国語科指導法Ⅲ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐谷 眞木人
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 模擬授業を通して、授業における課題を認識しよりよい授業に向けて改善していく方法を身につける。また、学習の到達度を評価する基準について理解し、実践できるようになる。			
授業の概要 「国語科指導法Ⅰ」の授業内容を踏まえた上で、実際に自分で教材と向き合い、授業を組み立てて模擬授業を行います。また、学生相互で評価し合い、よりよい授業ができるよう互いに意見を出し合って、「良い国語の授業」とは何かについて考えます。			
授業計画 第1回：授業実践に向けて（1）主題の設定と構成 第2回：授業実践に向けて（2）生徒との対話で授業を立体化する 第3回：授業演習（1）課題の発見と焦点化 第4回：授業演習（2）発問のポイントと指名の仕方 第5回：授業演習（3）授業内での作業の企画と実践 第6回：授業演習（4）板書の仕方と図解の方法 第7回：授業演習（5）資料の作成と提示 第8回：授業演習（6）テストの作り方 第9回：授業演習（7）深い学びのための教科書からの発展 第10回：授業演習（8）読みの可能性と妥当性 第11回：授業演習（9）生徒に発表させる目的と方法 第12回：授業演習（10）グループトークの取り入れ方 第13回：授業演習（11）情報機器を取り入れる 第14回：授業演習（12）自ら考える学びへの導入 第15回：まとめ 国語の授業とは何か			
テキスト 『新 高等学校国語総合』文部科学省検定済教科書（明治書院） 中学校学習指導要領解説国語編（平成29年告示 文部科学省） 高等学校学習指導要領解説国語編（平成30年告示 文部科学省）			

参考書・参考資料等

五味渕典嗣『「国語の時間」と対話する 教室から考える』（翰林書房）

学生に対する評価

授業内作成課題 40%・模擬授業 40%・授業に対する参加の積極性 20%

授業科目名： 国語科指導法Ⅳ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 中村 晋吾
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 本講義は、中高国語教員免許状の取得の一環として、国語科を指導する方法について考え、それを実践することを目的としている。近年は、新カリキュラムの導入にあたり、従来の国語教育の枠組みを超え、新たな国語教育の枠組みの導入が急がれる。特に現代文分野においては、教科の再編も念頭に置きながら、より生徒に積極的に考えさせる指導法を意識していく必要がある。このような現代的な動向を踏まえつつ、基本的な授業の運営の仕方について、演習を通じて考えていく。			
授業の概要 基本的に二回で一つの授業内容についてのテーマを扱う。学生の積極的な意見を講義中に求めながら、講義の終わりには自分の意見を記入する時間を作り、次の回の冒頭に主だった意見について一覧にし、フィードバックを行う。 講義全体の前半（第 7 回まで）は、授業の展開の方法や基礎的な内容について講義を行う。また、後半（第 8 回以降）では講義の内容を踏まえ、学生自身に模擬授業をしてもらう中で、教育実習に向けて基本的な方法論を実践してもらう。			
授業計画 第 1 回：ガイダンス、現代の国語教育を取り巻く状況について 第 2 回：「国語」のカリキュラムの変化について 第 3 回：「文学国語」指導の実践（古典的作品） 第 4 回：「文学国語」指導の探求（現代作品） 第 5 回：「論理国語」（評論文）の指導の実践 第 6 回：作文、添削指導について 第 7 回：授業方法の探求（差し込みでの応用実践について） 第 8 回：学生による模擬授業（古典的作品について） 第 9 回：学生による模擬授業（現代的作品・小説について） 第 10 回：学生による模擬授業（詩や短歌の指導） 第 11 回：学生による模擬授業（評論指導） 第 12 回：学生による模擬授業（ディベート、アクティブラーニング等の実践） 第 13 回：学生による模擬授業（新たな指導法の探求） 第 14 回：模擬授業についての総評、まとめ 第 15 回：授業全体のまとめ			
テキスト 中学校学習指導要領国語編（平成 29 年告示 文部科学省） 高等学校学習指導要領国語編（平成 30 年告示 文部科学省）			

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

講義全体を総括し、自分の意見をまとめたレポート（１２００字程度）と模擬授業発表の出来によって評価する。

授業科目名： 英語学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 宮前 和代
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学		
授業のテーマ及び到達目標			
・英語の文法について理解している。 ・英語の歴史的変遷および国際共通語としての実態について理解している。			
授業の概要			
英語という言語を客観的に理解し、日本語と対照させながら説明ができること、その知識を英語使用の現場で実践できることを目的として、以下の項目を学ぶ。			
(1) グローバル化が進み母語話者だけのものではなくなった英語の「国際共通語」としての現状を知り、「国際的にわかってもらいやすい」英語とコミュニケーションスタイルを学ぶ重要性を理解する。			
(2) 規範とされる母語話者の英語（イギリス英語・アメリカ英語・オーストラリア英語・カナダ英語）などの歴史的成り立ちと特徴を学び、一見「不合理」に見える英文法には歴史的な理由があることを理解する。			
(3) 英語を形作る音声・形態・統語・意味などのさまざまなレベルの「文法」を学び、日本語など他の言語との相違点・共通点について理解する。			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
現代英語の現状について、言語研究とは何か			
第2回：さまざまな英語（母語として・第二言語として・外国語として・国際共通語として・「世界諸英語」として）について			
第3回：英語の歴史（現代英語はどのようにしてできたのか）			
第4回：イギリス英語・オーストラリア英語の成り立ちと特徴			
第5回：アメリカ英語・カナダ英語の成り立ちと特徴			
第6回：語彙から見る英語らしさについて			
第7回：文法から見る英語らしさについて(1)			
主語をめぐる日英の違い			
第8回：文法から見る英語らしさについて(2)			
品詞から見るモノの捉え方			

第 9 回：文法から見る英語らしさについて(3)

文の構造と操作を分析する

第 10 回：音声と綴り字から見る英語らしさについて

第 11 回：発話行為から見る英語らしさについて

第 12 回：英語文化とコミュニケーションスタイルについて(1)

異文化コミュニケーションの実際

第 13 回：英語文化とコミュニケーションスタイルについて(2)

非言語コミュニケーションにも目を向けよう

第 14 回：「わかってもらえる」英語のための「核」(Lingua Franca Core)について

第 15 回：まとめ（理解を確認する課題、その解説と総括）

定期試験 実施しない

テキスト

平賀正子著『ベーシック 新しい英語学概論』、ひつじ書房 2016 年

参考書・参考資料等

中島平三著『ファンダメンタル英語学（改訂版）』、ひつじ書房 2011 年

中尾俊夫・寺島迪子著『図説 英語史入門』、大修館書店 1988 年

堀田隆一『英語の「なぜ？」に答える 初めての英語史』、研究社 2016 年

学生に対する評価

(1) 毎回の授業での class performance : 20%

(2) 毎回の授業で課す worksheet、quiz など : 50%

(3) 最終授業で課すまとめ課題 : 30%

授業科目名： 英語音声学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 宮前 和代
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学		
授業のテーマ及び到達目標 ・英語の音声の仕組みについて理解している			
授業の概要 英語の音を体系的・客観的に理解し、日本語と対照させながら説明ができること、その知識を英語使用の現場で実践できることを目的として、以下の項目を学ぶ。 （１）英語で用いられる母音と子音を日本語と対照させながら理論的に学ぶ。 （２）それら単音が連なった時に起きる音現象、単語・句・文になった時に現れる強勢（アクセント）やリズム、イントネーションについて学ぶ。 （３）それぞれについて聴取・発音練習を行い、実際に使えることを目指す。			
授業計画 第１回：ガイダンス 現代英語の発音、Englishes の現状について 第２回：音素とは何か、音声器官について、子音の分類 第３回：子音（１）閉鎖音 第４回：子音（２）摩擦音、破擦音 第５回：子音（３）鼻音、側面音、半母音 第６回：子音のまとめ（ミニテスト）、母音の分類 第７回：母音（１）短母音 第８回：母音（２）長母音 第９回：母音（３）二重母音、弱母音 第１０回：母音のまとめ（ミニテスト） 音の連続（１）音の結合による変化 第１１回：音の連続（２）音の脱落、同化 第１２回：アクセント（１）語アクセント、複合語アクセント、句アクセント 第１３回：アクセント（２）文アクセント、強形と弱形、リズム 第１４回：イントネーション 第１５回：まとめ（理解を確認する課題、その解説と総括）			

定期試験 実施しない
テキスト 竹林滋・清水あつ子・斎藤弘子著『改訂新版 初級英語音声学 CD 付』、大修館書店 2013 年
参考書・参考資料等 ・米山明日香著『英語リスニングの鬼 100 則』、明日香出版社 2020 年 ・米山明日香著『英語発音記号の鬼 50 講』、明日香出版社 2021 年
学生に対する評価 (1)毎回の授業で課す worksheet、quiz など：40% (2)ミニテスト 2 回：30% (3)最終授業で課すまとめ課題：30%

授業科目名： Communicative Grammar	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 生田 裕二 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 英語学		
授業のテーマ及び到達目標 英語のコミュニケーションにおける音声・文法を正確に理解し、さらにそれを生徒にわかりやすく指導する力を養う。また英語の歴史的変遷及び国際共通語としての英語の実態について理解する。			
授業の概要 英語の音声や各文法項目に関して受講者の理解の確認を行い、理解が不十分な点を問題演習等で復習する。また、各項目をよりわかりやすく指導する方法を受講者に考案・発表させる。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、音声・文法指導の意義や課題 第2回：英語の音声について（1）「母音・子音」、「発音記号」について 第3回：英語の音声について（2）「アクセント」「イントネーション」 第4回：文法について（1）「動詞」 第5回：文法について（2）「時制」 第6回：文法について（3）「助動詞」 第7回：文法について（4）「準動詞」 第8回：文法について（5）「関係詞」 第9回：文法について（6）「名詞」 第10回：文法について（7）「代名詞」 第11回：文法について（8）「形容詞・副詞」 第12回：文法について（9）「仮定法」 第13回：文法について（10）「比較」 第14回：文法について（11）「前置詞」、英語の歴史・変遷について 第15回：英語の現状について、まとめ 定期試験は実施しない。			
テキスト 八木克正著『現代高等英文法：学習文法から科学文法へ』開拓社(3960円税込)			
参考書・参考資料等 綿貫陽，マーク・ピーターセン著『表現のための実践ロイヤル英文法』旺文社（1980円税込）			
学生に対する評価 授業に対する積極的参加度（30％）、発表（30％）、レポート（40％）			

授業科目名： 英米文学研究Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 有馬 弥子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 英語文学		
授業のテーマ及び到達目標： 英米文学史を概観することにより①英語教員として知っておくべき作家、作品について基本的知識を身につけると同時に②学生自身が深めて研究したい特定の作品との出会い力を高める。			
授業の概要： 各時代区分順に主要な作家、作品を取り上げる。又、大学生の多くが既に生まれている2000年以降の最新現代作品を重視し、英米文学史や英米の歴史を学生自身の自分史と重ねて考察してもらう。			
授業計画 第1回：英語文学の中のイギリス文学史の位置付け 第2回：英語文学の中のアメリカ文学史の位置付け 第3回：イギリスの黎明期とイギリス文学の誕生 第4回：ルネッサンス文学とエリザベス朝演劇からシェイクスピアまで 第5回：シェイクスピア 第6回：イギリス文学と政治、宗教、市民社会（Jonathan Swift, George Orwell他） 第7回：多民族系イギリス文学（John Maxwell Coetzee, Kiran Desai他） 第8回：イギリス現代演劇事情（Harold Pinter, Tom Stoppard, David Hare他） 第9回：アメリカの黎明期とアメリカ文学の誕生 第10回：アメリカ文学の展開と二世界大戦後の課題 第11回：アメリカニズムの拡張 第12回：アメリカ文学と政治、公民権運動と女性運動がもたらしたうねり（Toni Morrison他） 第13回：多民族系アメリカ文学（Hisaye Yamamoto, Ayad Akhtar他） 第14回：アメリカ現代演劇事情（Neil Simon, Edward Albee, David Mamet他） 第15回：総括（英米文学史と令和に生きる各自の自分史）			
テキスト：『イギリスの文学——概説と演習』英宝社 『21世紀から見るアメリカ文学史』英宝社			
参考書・参考資料等：『現代演劇 Vol.21 トニー賞・ピューリツァー賞』新水社 『現代演劇 Vol.22 ローレンス・オリヴィエ賞』朝日出版社			
学生に対する評価：授業参加度25%、知識習得度25%、文学鑑賞力25%、多文化理解力25%			

授業科目名： 英米文学研究Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 有馬 弥子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 英語文学		
授業のテーマ及び到達目標： 英米文学作品においてジェンダーをめぐる多様な課題が如何に表現されているかを研究する。 又、従来の作品を現代的なジェンダーの視点から新たに照射する研究姿勢を身につける。			
授業の概要： ジェンダーをめぐる先鋭的な作品を基軸に考察し、LGBTをテーマにした作品についても時代順に考察。授業で取り上げる作品以外に、各自がジェンダーの視点で選んだ作品を研究する。			
授業計画 第1回：英米文学におけるジェンダー研究について 第2回：現代作品におけるジェンダー及び従来の作品にみる現代的ジェンダーの要素 第3回：日系アメリカ人作家ヤマモト作品、ヤマウチ作品にみる時代性と女性の立場 第4回：インド系アメリカ人作家ムーカジ作品、ラヒリ作品にみる越境性と女性の自己再生 第5回：パキスタン系アメリカ人作家アクタール作品にみる女性の模索 第6回：アラブ系アメリカ文学作品にみる女性の在り方の諸相 第7回：カリブ系アメリカ人作家キンケイド作品にみるポストコロニアリズムと女性の成長 第8回：ハイチ系アメリカ人作家ダンティカ作品にみる女性の苦悩 第9回：シェイクスピア（『ロミオとジュリエット』『ヴェニスの商人』の女性主人公たち） 第10回：シェイクスピア（『マクベス』におけるマクベス夫人の野心と狂気） 第11回：イギリスにおける女性作家の隆盛（オースティン、ブロンテ姉妹、G・エリオット） 第12回：ヴァージニア・ウルフとイギリスにおけるサフラジェット女性運動 第13回：LGBT再考（フォスターによる <i>Maurice</i> から） 第14回：LGBTの現在（アニー・プルーの <i>Brokeback Mountain</i> に至るまで） 第15回：総括（英米文学にみるジェンダーと令和に生きる各自のジェンダー的課題）			
テキスト： 授業計画に記した作品の抜粋、その他のジェンダーをめぐる代表的な作品の抜粋を教室内で配布する			
参考書・参考資料等： <i>Asian American Literature Association Journal</i> 掲載論文、『多民族研究』掲載論文、その他の恵泉女学園大学図書館指定図書の棚に配架する関係の研究書多数			
学生に対する評価： 授業参加25%、知識習得25%、各自が選んだ作品についての研究レポート50%			

授業科目名： 英米児童文学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 成瀬 俊一
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 英語文学		
授業のテーマ及び到達目標			
英国児童文学におけるファンタジーの発展の軌跡を、近代児童文学が生まれたヴィクトリア時代中期から第2次大戦前夜まで（1860年代～1930年代）の代表的なファンタジー作品に焦点を当てて研究します。授業の到達目標は、①個々の作品の登場人物・舞台・出来事の特徴を手がかりに、テーマとメッセージを解説する手法の習得、②ファンタジー黄金時代の主要作品の共通テーマとそれを表現する手法の発展過程を発見することです。以上をふまえて、③教育における文学と想像力の役割をどう理解したかを自分の言葉で発信できるようにします。			
授業の概要			
ファンタジー黄金時代には今日も世界中で若い読者に愛読されている優れた作品が多数生み出されました。この時代の主要な作家たちが発展させてきたファンタジーの手法と、それを通して読者に託そうと努めた永続的な価値観を探究します。			
授業計画			
第1回：オリエンテーションと「英国児童文学の誕生」講義			
第2回：「ファンタジーの誕生と発展」講義			
第3回：教訓のない物語：L・キャロル『不思議の国のアリス』（1865年）講義			
第4回：『不思議の国のアリス』小レポート発表（受講者によるプレゼンテーション）			
第5回：〈聖なるもの〉との出会い：G・マクドナルド『王女とゴブリンの物語』（1872年）講義			
第6回：等身大の子ども像：E・ネズビット『砂の妖精』（1902年）講義			
第7回：動物と人間：B・ポター『ピーター・ラビットのおはなし』（1902年）講義			
第8回：休暇の物語：K・グレアム『楽しい川べ』（1908年）講義			
第9回：子どもと大人：J・M・バリ『ピーター・パン』（1911年）講義			
第10回：『ピーター・パン』小レポート発表（受講者によるプレゼンテーション）			
第11回：理想郷としての幼年時代：A・A・ミルン『クマのプーさん』（1926年）講義			
第12回：『クマのプーさん』小レポート発表（受講者によるプレゼンテーション）			
第13回：現代に甦る伝承文学：P・L・トラヴァース『メアリー・ポピンズ』（1934年）講義			
第14回：新しい英雄像：J・R・R・トールキン『ホビットの冒険』（1937年）講義			
第15回：「ファンタジー黄金時代の背景とテーマ」講義			

テキスト

本多英明・桂宥子・小峰和子編著『たのしく読める英米児童文学』ミネルヴァ書房

参考書・参考資料等

授業時に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

小レポート（3回実施）（30%）

期末レポート（70%）

授業科目名： World Literature in English	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 有馬 弥子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 英語文学		
授業のテーマ及び到達目標：英語を入り口にして世界の文学、文豪を知り、感性と多文化理解力を養う。①世界文学に共通する普遍的なテーマを探り ②一方で各文化に特有のテーマを見出し、①と②の交錯について研究する。又、これらの学習と研究を通じ具体的に英語表現の豊かさに触れていく。			
授業の概要： 英米が舞台ではないが英語で書かれた文学、世界的に著名な作家の作品の英訳、この両面から取り上げていく。文豪として知っておくべき作家の代表作を中心とし、授業計画にあげた作品以外にも、なるべく多くの作家、作品に言及する。各履修者が選んだ作品についても取り上げる。			
授業計画 第1回：英語文学とは 第2回：英語に翻訳された世界文学とは 第3回：イギリス文学（シェイクスピア演劇他） 第4回：アメリカ文学（ヘミングウェイ短編他） 第5回：フランス文学（ベケット、カミュ他） 第6回：ドイツ文学（トーマス・マン他） 第7回：ロシア文学（チェーホフ、プーシキン他） 第8回：ラテンアメリカ文学（ガルシア＝マルケス他） 第9回：クレオール文学（ジーン・ライス他） 第10回：中国文学と中国系アメリカン文学（デビッド・ヘンリー・ファン他） 第11回：インド文学とインド系アメリカン文学（ジュンパ・ラヒリ他） 第12回：アラブ文学とアラブ系アメリカン文学（ラビー・アラメッディン他） 第13回：日本文学（村上春樹他）と日系アメリカン文学 第14回：フェミニズムと世界文学（イプセン『人形の家』他） 第15回：総括（世界文学の作品との出会いから見える各自の将来の歩み）			
テキスト：小倉孝誠 『世界文学へのいざない』 新曜社 ジョン・サザーランド著・河合 祥一郎翻訳 『若い読者のための文学史』 すばる舎			
参考書・参考資料等：恵泉女学園大学図書館の外国文学セクションに配架された各作品多数			
学生に対する評価： 授業参加度25%、知識習得度25%、文学鑑賞力25%、多文化理解力25%			

授業科目名： 英語コミュニケーション基礎 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 宇佐美 裕子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
CEFR B2レベル以上を目標とした英語運用能力を身に付ける。			
1） 様々なジャンルや話題の英語を聞いて、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。			
2） 様々なジャンルや話題の英語を読んで、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。			
3） 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で話すこと[やり取り・発表]ができる。			
4） 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができる。			
5） 複数の領域を統合した言語活動を遂行することができる。			
授業の概要			
様々なジャンルや話題（自己紹介、食べ物、健康、旅行、規則、文化）に関する英語について、素早く必要な情報を読み取り、その内容について話し、読んで理解し、書いてまとめる。また各moduleの内容に関連した、CEFRレベルごとの語彙と文法を学習する。			
授業の最終回には、与えられたトピックについて各自プレゼンテーションを行う。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション（シラバス配布、授業説明）			
第2回：自己紹介（スキヤニング、スピーキング、語彙、文法、リスニングの学習） Module 1: Introduction (Match, Scan, Speak, Vocabulary, Grammar, Listen)			
第3回：自己紹介（リーディング、ライティング、クロスワードの学習） Module 1: Introduction (Read, Write, Crossword)			
第4回：食べ物（スキヤニング、スピーキング、語彙、文法、リスニングの学習） Module 2: Food (Match, Scan, Speak, Vocabulary, Grammar, Listen)			
第5回：食べ物（リーディング、ライティング、クロスワードの学習） Module 2: Food (Read, Write, Crossword)			
第6回：健康（スキヤニング、スピーキング、語彙、文法、リスニングの学習） Module 4: Health (Match, Scan, Speak, Vocabulary, Grammar, Listen)			
第7回：健康（リーディング、ライティング、クロスワードの学習） Module 4: Health (Read, Write, Crossword)			
第8回：旅行（スキヤニング、スピーキング、語彙、文法、リスニングの学習） Module 5: Travel (Match, Scan, Speak, Vocabulary, Grammar, Listen)			
第9回：旅行（リーディング、ライティング、クロスワードの学習）			

Module 5: Travel (Read, Write, Crossword) 第10回：規則（スキミング、スピーキング、語彙、文法、リスニングの学習） Module 6: Rules (Match, Scan, Speak, Vocabulary, Grammar, Listen) 第11回：規則（リーディング、ライティング、クロスワードの学習） Module 6: Rules (Read, Write, Crossword) 第12回：文化（スキミング、スピーキング、語彙、文法、リスニングの学習） Module 7: Culture (Match, Scan, Speak, Vocabulary, Grammar, Listen) 第13回：文化（リーディング、ライティング、クロスワードの学習） Module 7: Culture (Read, Write, Crossword) 第14回：プレゼンテーションテストとフィードバック 第15回：プレゼンテーションテストとフィードバック 定期試験
テキスト <i>Framework English</i> (KINSEIDO)
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 プレゼンテーションテスト：20% 定期試験（リーディング、リスニング、ライティング、文法、語彙）：80%

授業科目名： Talks and Presentations	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： Germain Mesureur
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 英語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
Talks and Presentations: Skills and Practice			
授業の概要			
This class aims to cover both the theory and practice of giving presentations in an academic context, as well as understanding and practicing different types of public speaking and talks. The first aspect of the course deals with some of the important elements of any presentation and talks: 1) Presentation planning 2) Presentation structure 3) Starting a presentation, closing a presentation, summary and conclusion 4) Dealing with nervousness 5) Understanding the concepts of voice and speech, and learning to control and improve speaking in public. 6) Styles of presenting, body language and other non-verbal communication 7) Slides and visual aids 8) Elements of visual communication 9) Handling the question and answer (Q&A) session 10) Talks, casual presentations and other types of public speaking The second aspect of the course, which will be intertwined with the first, focuses on giving students the opportunity to apply what they learn and present their topic(s). They will also evaluate presentations, as well as review presentation videos, including one of their own. Upon completion of this course, students should be able to: - recognize the basic structure of an effective presentation - create and deliver an academic presentation - answer and ask questions following academic presentations - evaluate presentations by their peers, as well as provide constructive feedback The class is taught in English, and students are expected to give presentations in English.			

授業計画

第1回: Goal setting

第2回: Planning a presentation

第3回: Structuring a presentation, openings

第4回: First presentations

第5回: Focusing on content

第6回: Visual aids 1

Understanding typeface choice and fonts sizes.

Colour choice and slideshow mechanics.

第7回: Visual aids 2

Chart types and designing effective graphics for visual communication.

第8回: Summaries, closing.

第9回: Second presentations (recorded on video)

第10回: Handling Q&A

第11回: Body language and non-verbal communication

第12回: Giving Feedback and assessing presentations

第13回: Practicing and rehearsing

第14回: Final presentations 1

All students give presentations. Typically, 15-20 minutes per student.

第15回: Final presentations 2

All students give presentations. Typically, 15-20 minutes per student.

定期試験は行わない

テキスト

The instructor will provide a number of handouts which will form a class workbook.

No textbook is required.

参考書・参考資料等

Paulette Dale *Speech Communication Made Simple 1* (Pearson Japan)

Paulette Dale, James Wolf *Speech Communication Made Simple 2* (Pearson Japan)

学生に対する評価

Active participation and contribution:25%

Class workbook:15%

Presentation 1:10%

Presentation 2 (inc. video and self-assessment):20%

Presentation 3:30%

授業科目名： Talks and Presentations	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： Germain Mesureur
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 英語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 Talks and Presentations: スキルと実践			
授業の概要 このクラスでは、学術的な文脈でのプレゼンテーションの理論と実践の両方をカバーし、さまざまなタイプのスピーチや講演を理解し実践することを目的としています。 コースの最初の面では、プレゼンテーションや講演の重要な要素をいくつか取り上げます。 1) プレゼンテーションの企画 2) プレゼンテーションの構成 3) 発表の開始、発表の終了、まとめ、結論 4) 緊張への対処 5) 声と話し方の概念を理解し、人前で話すことをコントロールし、向上させることを学ぶ。 6) プレゼンテーションのスタイル、ボディランゲージなどのノンバーバルコミュニケーション 7) スライドとビジュアルエイド 8) ビジュアルコミュニケーションの要素 9) 質疑応答への対応 10) トーク、カジュアルプレゼンテーションなど、人前で話すこと 2つ目の側面は、1つ目の側面と絡めて、学んだことを応用し、自分のテーマを発表する機会を与えることに重点を置いています。また、プレゼンテーションの評価や、自分自身のプレゼンテーションを含むプレゼンテーションビデオの確認も行います。 このコースを修了すると、次のことができるようになります。 - 効果的なプレゼンテーションの基本構造を理解する。 - 学術的なプレゼンテーションを作成し、実施する。 - アカデミックなプレゼンテーションの後、質問に答える。 - 仲間のプレゼンテーションを評価し、建設的なフィードバックを提供する。 授業は英語で行われ、英語でのプレゼンテーションを求められます。			
授業計画 第1回 目標設定 第2回 プレゼンテーションの企画			

第3回 プレゼンテーションの構成、開口部

第4回 初めてのプレゼンテーション

第5回 内容重視

第6回 ビジュアルエイド1

書体の選択とフォントのサイズを理解する。色彩の選択とスライドショーの仕組み。

第7回 ビジュアルエイド2

チャートの種類と効果的なグラフィックのデザイン。ビジュアルコミュニケーション

第8回 まとめ、クロージング

第9回 2回目のプレゼンテーション(ビデオ収録)

第10回 質疑応答への対応

第11回 ボディランゲージとノンバーバルコミュニケーション

第12回 フィードバックとプレゼンテーションの評価

第13回 練習とリハーサル

第14回 最終発表会1

全学生が順番に、一人あたり15分～20分でプレゼンテーションを行う。

第15回 最終発表会2

全学生が順番に、一人あたり15分～20分でプレゼンテーションを行う。

定期試験は行わない

テキスト

教員が配布するプリントをワークブックとして使用する。

参考書・参考資料等

Paulette Dale *Speech Communication Made Simple 1* (Pearson Japan)

Paulette Dale, James Wolf *Speech Communication Made Simple 2* (Pearson Japan)

学生に対する評価

積極的な参加と貢献:25%

授業用ワークブック:15%

プレゼンテーション1:10%

プレゼンテーション2(ビデオと自己評価を含む):20%。

プレゼンテーション3:30%

授業科目名： Academic Reading and Writing	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 越智 健太郎 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 英語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：アカデミックな場面で求められる基礎的な reading・writing 力を身につける 到達目標： ・ 英語の reading・writing の際の、各種辞書の有効的な使い方について説明することができる。 ・ 可算名詞・不可算名詞や冠詞の使い分け、および、日本語訳が似ている英単語の使い分けについて説明することができる。 ・ 英語の essay および paragraph について、その構成や特徴を説明することができる。 time order、cause and effect、compare and contrast、charts and graphs、claims and opinions、reference and citation に関する重要な表現を読んで理解し、また、writing の際に使用することができる。 ・ essay の構想、執筆および校正・推敲を適切に行うことができる。			
授業の概要 この授業では、英語の論文を読む、論理的な essay を書く、などのアカデミックな場面で求められる基礎的な reading・writing の力を身につけることを目的にしている。第 12 回までの授業回では、それぞれの回の重点トピックにそって、前半 reading、後半 writing というように両者を組み合わせて学ぶ。reading の際には、単に英語の意味がわかるだけでなく、書き手はなぜここでこのような書き方を選択しているのかを理解し、また writing の際には、読者にとって自分が伝えたいことができるだけ正確かつ効果的に伝わる表現は何かを考えていくことが非常に重要である。第 13 回からは、それまでに学んだ内容を活用しながら essay を執筆し、第 15 回ではクラス内でお互いの essay を読み相互批評を行う。 授業では、重要な部分については日本語も併用するが、可能な範囲で英語を使用する。 また、毎回の授業の後には授業の振り返りシートを提出するほか、授業内で適宜、理解度を測るためのミニテストを行う。			
授業計画 第 1 回：reading と writing のつながり・各種辞書の有効的な使い方 第 2 回：名詞の理解を深める（可算名詞・不可算名詞、冠詞の使い分け） 第 3 回：日本語訳が似ている英単語の使い分け (1)動詞 第 4 回：日本語訳が似ている英単語の使い分け (2)形容詞・副詞 第 5 回：日本語訳が似ている英単語の使い分け (3)助動詞・接続詞・関係代名詞 第 6 回：essay、paragraph とは何か 第 7 回：reading and writing (1) time order （reading と writing の実践: 時系列についての表現） 第 8 回：reading and writing (2) cause and effect （reading と writing の実践: 原因・結果についての表現） 第 9 回：reading and writing (3) compare and contrast （reading と writing の実践: 比較対照についての表現）			

第10回：reading and writing (4) charts and graphs (reading と writing の実践: 表・グラフについての表現) 第11回：reading and writing (5) claims and opinions (reading と writing の実践: 主張・意見についての表現) 第12回：reading and writing (6) reference and citation (reading と writing の実践: 出典・引用についての表現) 第13回：essay writing (essay の執筆) 第14回：proofreading and revising (校正と推敲) 第15回：相互批評と全体のまとめ 定期試験は実施しない。
テキスト デイビッド・セイン『mini 版 学校では教えてくれなかった ネイティブにちゃんと伝わる英単語帳』アスコム、2012年。 リーパーすみ子『アメリカの小学校に学ぶ英語の書き方』コスモピア、2011年。
参考書・参考資料等 島倉保美『論理が伝わる『書く技術』』講談社、2012年。このほか、授業にて適宜資料を配布する。
学生に対する評価 授業への取り組み（毎回の授業後に提出する振り返りシートを含む）（30%）、理解度を測るために授業内で行うミニテスト（40%）、essay 課題（30%）

授業科目名： 異文化コミュニケーション	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 桃井 和馬
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・異文化理解		
授業のテーマ及び到達目標			
異なる文化や人々を繋ぐ『異文化コミュニケーション』の大切さを、世界史・国際情勢・社会の背景から学び、確認する。			
授業の概要			
世界の様々な地域や国で、異なる文化や人々を排除しようとする動きが生まれている。このような時代だからこそ、異なる文化を、その背景を知った上で読み解くことの重要性が増している。英語という『世界共通言語』は何故大切なのか？ どのようにしたら文化的背景が異なる人々とコミュニケーションを取ることができるのか？ 国際情勢や、その背後にある世界史・宗教観を知ると共に、実践的な異文化コミュニケーションの方法を、世界140カ国での取材経験を持つ教員が多様な角度から考察する。			
授業計画			
第1回：はじめに（授業説明・レポートの書き方・それぞれの異文化体験紹介）			
第2回：異なる文化どのようにして生まれるのか？ 地理・地政学的見地からの考察 （日本、エチオピア、フィリピン、インドネシア、マチュピチュなど）			
第3回：異文化でのサイン・言語、及び文化を越え共通する非言語コミュニケーション （ジャンケン／Vサイン／象・アリ・ゴリラ・人間、及び人間社会／異文化圏での動き方、言葉の覚え方、世界各地で共通すること、しないこと）			
第4回：覇権と言語① ヘレニズムと古代ギリシャ語			
第5回：覇権と言語② ラテン語・フランス語、ポルトガル語、スペイン語、およびエスペラント語の意味			
第6回：覇権と言語③ 英語 （イギリス、アメリカ、その他の英語圏 ex. ジャマイカ、フィリピン、インド）			
第7回：国民国家（Nation State）と多民族国家の苦悩 （アメリカ／メルティング・ポットからサラダボールへ／ガレージセール／ドラッグレース）			
第8回：宗教から考える異なる社会的枠組み 「宗教」国家としてのアメリカ・ロシア・EU・バチカン			
第9回：「異文化」理解を助ける映像鑑賞／ディスカッション			

第10回：「カインとアベル」から「ルワンダ」へ

～ 異なる生活様式と生産手段から考える「衝突」～

第11回：「異文化コミュニケーション」から生まれる民主主義社会

～ 世界情勢から見る戦争の作り方～

（「異文化」強調・仮想敵の創出・報道管制・表現の自由の禁止・専制政治）

第12回：サイドとバレンボイムが目指した「異文化コミュニケーション」

～ パレスチナとイスラエルで実践される異文化コミュニケーション～

第13回：「国際知的協力委員会」からユネスコへ ～ 異文化交流を前提にする平和構築～

第14回：ディベートとダイアログ／シンパシーとエンパシー

第15回：自然と人間の関係から考える「異文化生存権」を越えた共存の形

（支配・被支配の関係を越えた「助け合いの形」／地球環境／チプロ運動）

定期試験は実施しない。

テキスト

桃井和馬『和解への祈り』日本キリスト教団出版局

桃井和馬『希望の大地』岩波書店

参考書・参考資料等

適宜配布する。

学生に対する評価

毎回の授業後提出するコメントペーパー（20％）、レポート2回（40％×2回＝80％）

授業科目名： 英語コミュニケーション基礎Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 宇佐美 裕子 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 異文化理解		
授業のテーマ及び到達目標 文化の多様性、異文化コミュニケーションについて学ぶ。 1) 世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を理解している。 2) 多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性及び異文化交流の意義について体験的に理解している。 3) 英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解している。			
授業の概要 12の国に関する衝撃アイテムに注目し、そのアイテムがなぜその国で愛され、長年使用されていることを知ることから、世界各国の文化・風習・歴史・気候・宗教・人種・食文化・交通事情など異文化理解を深める。 各Unitにおいて、400語程度のエッセイを読み、日本人とその国出身の留学生との体験に基づく食文化についての会話を聞いて、ディクテーションや内容を理解する問題を解き、ロールプレー等を通してスピーキングの練習を行い、各国の文化について理解を深める。 (YouTube等の)視覚教材を用いて、多様な文化を持った人々と擬似的に交流することで、文化の多様性について体験する。 授業の最終回には、各自関心のある国を紹介するプレゼンテーションを行う。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（シラバス配布、授業説明） 第2回：カナダについて（自然に恵まれた調和の文化とは） Unit 1: Canada: Natural Beauty Abounds 第3回：タイについて（香りにこだわる文化とは） Unit 2: Thailand: Where Culture and Fragrance Harmonize 第4回：ドイツについて（ビールを愛する環境先進国ドイツとは） Unit 3: Germany: Leaders in Protecting Our Environment 第5回：ロシアについて（極寒の中に生きる文化とは） Unit 5: Russia: Home to the Coldest Place Inhabited by Humans 第6回：イスラエルについて（伝統と技術が融合する文化とは） Unit 6: Israel: A Land of Tradition and Technology			

第7回：南アフリカについて（アフリカ大陸最南端の親睦文化とは）

Unit 7: South Africa: The Country with 11 Different Names

第8回：アメリカ合衆国について（自動車大国、アメリカとは）

Unit 8: The United States: A Nation on the Road

第9回：フランスについて（効率重視のフランス文化とは）

Unit 9: France: A Place of Little Waste

第10回：ニュージーランドについて（共生のニュージーランド文化とは）

Unit 11: New Zealand: Where Native Culture Thrives

第11回：韓国について（食で深まるきずな文化とは）

Unit 12: South Korea: The Crossroads of Food, Culture, and Tradition

第12回：ブラジルについて（サッカーとダンスが織りなす文化とは）

Unit 14: Brazil: A Paradise for Soccer and Dance Lovers

第13回：スウェーデンについて（くつろぎのスウェーデン文化とは）

Unit 15: Sweden: Time for *Fika*

第14回：プレゼンテーションテストとフィードバック

第15回：プレゼンテーションテストとフィードバック

定期試験

テキスト

Guess What?! – Intercultural Surprises – (Nan'un-do)

参考書・参考資料等

授業中に提示する。

学生に対する評価

プレゼンテーションテスト：30%

定期試験（リーディング、リスニング、ライティング、文法、語彙）：70%

授業科目名： 比較文化論Ⅱ		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高濱 俊幸
				担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・異文化理解		
授業のテーマ及び到達目標 「場」から考える比較文化史。市民生活にとって重要な文化的場の形成過程について、イギリスを中心に複数の国と比較しながら検討する。到達目標は以下の通り。 授業でとりあげた「場」をめぐる文化史の概略が説明できるようになること。 文化のあり方が国や地域によって多様であることを知り、価値の多元性を理解できるようになること。				
授業の概要 大学からデパートまで、私たちの文化生活において重要な働きをしている「場」に焦点を当て、比較という視点を通じて文化の多様性を明らかにし、多元的・重層的な社会のあり方を講義します。				
授業計画 第1回：イントロダクション 第2回：大学―歴史と現在― 第3回：図書館―知の拠点として― 第4回：宮殿―王の住まい― 第5回：庭―古今東西の庭園文化― 第6回：公園―近代都市の形成― 第7回：リゾート地―大衆旅行時代の時代― 第8回：中間まとめと中間試験 第9回：カフェ―ひとびとが集まる理由― 第10回：ストリート―目抜き通りの比較研究― 第11回：議事堂―さまざまな議会制の姿― 第12回：博物館―大英博物館を中心に― 第13回：動物園―ヴェルサイユ動物園から上野動物園まで― 第14回：デパート―パリ・ロンドン・東京― 第15回：最終まとめと最終試験				
テキスト 授業中にプリントを配布する。				

参考書・参考資料等

荻谷剛彦『イギリスの大学、ニッポンの大学』中公新書

マシュー・バトルズ『図書館の興亡: 古代アレクサンドリアから現代まで』草思社文庫

クレール・コンスタン『ヴェルサイユ宮殿の歴史』創元社

ジャック・ブノア＝メシヤン『庭園の世界史―地上の楽園の三千年』講談社学術文庫

小野良平『公園の誕生』吉川弘文館

中川浩一『観光の文化史』筑摩書房

高井尚之『カフェと日本人』講談社現代新書

岡本哲志『銀座四百年 都市空間の歴史』講談社選書メチエ

安高啓明『歴史のなかのミュージアム―驚異の部屋から大学博物館まで』昭和堂

溝井祐一『動物園・その歴史と冒険』中公新書ラクレ

海野弘『百貨店の博物史』アーツアンドクラフト

学生に対する評価

各回授業の理解度テストで20%、第8回目の中間試験で30%、第15回目の最終試験で50%を評価する。

授業科目名： 英語圏の歴史と文化	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高濱 俊幸
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・異文化理解		
授業のテーマ及び到達目標 トピックから見るイギリス文化史。イギリスを中心に、近代史上のトピックを取り上げて、文化の形成について考えていきます。			
授業の概要 英語圏を対象とした文化史を論じ、歴史的に形成された社会の多様な姿を明らかにします。			
授業計画 第1回： イントロダクション 第2回：『ユートピア』（1516年）とイギリス・ルネサンスの夢 第3回： バビントン事件（1587年）と宗教対立 第4回： グローブ座（1599年）からドルリーレーン劇場（1663年）まで 第5回： コーヒーハウスの出現（1650年）から紅茶文化へ 第6回： ポウプの庭（1720年）と風景式庭園の流行 第7回： ジャコバイトの乱（1745年）とスコットランド・ナショナリズム 第8回： 中間まとめと中間試験 第9回： 「ネイボップ」誕生からインド大反乱（1857年）まで 第10回： リージェント・ストリートの建設（1825年）と都市の改造 第11回： 切り裂きジャック（1888年）と大衆ジャーナリズムの成立 第12回： H. G. ウェルズ『タイム・マシン』（1895年）と社会主義の夢 第13回： ハワードの田園都市構想（1898年）と郊外住宅街の形成 第14回： タイタニック号沈没（1912年）と貴族支配の終焉 第15回： 最終まとめと最終試験			
テキスト 授業中にプリントを配布する。			
参考書・参考資料 近藤和彦『イギリス史10講』岩波新書 トマス・モア『ユートピア』中公文庫 アリソン アトリー『時の旅人』岩波少年文庫 ウォルター ホッジス『シェイクスピアの劇場—グローブ座の歴史』ちくま文庫			

小林章夫『コーヒー・ハウス』講談社学術文庫

川島昭夫『植物と市民の文化』（山川出版社：世界史リブレット）

高橋哲雄『スコットランド 歴史を歩く』岩波新書

長崎暢子『インド大反乱一八五七年』中公新書

鈴木博之『ロンドン―地主と都市デザイン』ちくま新書

仁賀克雄『決定版 切り裂きジャック』ちくま文庫

H・G・ウェルズ『タイムマシン』岩波文庫

エベネザー・ハワード『新訳 明日の田園都市』鹿島出版会

ウォルター・ロード『タイタニック号の最後』ちくま文庫

学生に対する評価

各回授業の理解度テストで20%、第8回の中間試験で30%、第15回の最終試験で50%を評価する。

授業科目名： 英語科指導法Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 生田 裕二
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
中学校及び高等学校の英語教育の基軸となる学習指導要領及び教科書について、また学習到達目標及び年間指導計画、単元計画、各時間の指導計画について基本的な内容を理解する。また、小学校の外国語活動・外国語科の学習指導要領並びに教材、教科書について知るとともに、小・中・高等学校の連携の在り方について理解する。			
授業の概要			
英語教育の現状、問題点、課題など、実例を挙げながら説明し、問題提議をする。さらに毎時の講義内容に関するテーマを設けて、発表・ディスカッション等も行う。また、教育現場で日々活躍している現任教員をゲスト・スピーカーとして招待してお話を伺い、受講生の意識向上を図る。			
授業計画			
第1回:オリエンテーション、日本社会と英語・英語教育について(1) 歴史と現状			
第2回:日本社会と英語・英語教育について(2) 今後の課題			
第3回:文字・語彙表現指導について(1)指導例紹介			
第4回:文字・語彙表現指導について(2)実践練習			
第5回:文法指導について(1)指導例紹介			
第6回:文法指導について(2)実践指導			
第7回:異文化理解の指導について(1)指導例紹介			
第8回:異文化理解の指導について(2)実践練習			
第9回:英語を使用したインタラクションについて			
第10回:ALTとのチーム・ティーチング指導について			
第11回:生徒の特性・習熟度を考慮した指導について			
第12回:現任教員による講演(担当:未定)			
第13回:授業づくりについて(1)準備、話し方・目線などの教授態度等			
第14回:授業づくりについて(2)ハンドアウト、板書、説明力等			
第15回:まとめ			
定期試験は実施しない。			

テキスト

中学校学習指導要領』(平成29年告示 文部科学省)

高等学校学習指導要領(平成30年告示 文部科学省)

中学校学習指導要領解説 外国語編(平成29年告示 文部科学省)

高等学校学習指導要領解説 外国語編(平成30年告示 文部科学省)

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価

授業への積極的な参加(30%)、発表(40%)、レポート(30%)

授業科目名： 英語科指導法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 生田 裕二
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
中学校及び高等学校の英語教育の基軸となる学習指導要領及び教科書について、また学習到達目標及び年間指導計画、単元計画、各時間の指導計画について応用・実践的な内容を理解する。また、小学校の外国語活動・外国語科の学習指導要領並びに教材、教科書について知るとともに、小・中・高等学校の連携の在り方について理解する。また、教育実習に必要な知識や実践力を身につける。			
授業の概要			
英語科指導法Ⅰで学んだ内容を基に、英語教育の現状、問題点、課題などについてより掘り下げて説明する。さらに毎時の講義テーマをベースに、教育実習を意識したマイクロティーチングなどの実践的な内容も盛り込む。また、教育現場で日々活躍している現任教員をゲスト・スピーカーとして招待しお話を伺い、受講生の意識向上を図る。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション、日本社会と英語・英語教育について（1）歴史と現状			
第2回：日本社会と英語・英語教育について（2）今後の課題			
第3回：文字・語彙表現指導について・マイクロティーチング（1）指導例紹介			
第4回：文字・語彙表現指導について・マイクロティーチング（2）実践練習			
第5回：文法指導について・マイクロティーチング（1）指導例紹介			
第6回：文法指導について・マイクロティーチング（2）実践練習			
第7回：異文化理解の指導について・マイクロティーチング（1）指導例紹介			
第8回：異文化理解の指導について・マイクロティーチング（2）実践練習			
第9回：英語を使用したインタラクションについて・マイクロティーチング			
第10回：ALTとのチーム・ティーチング指導について・マイクロティーチング			
第11回：生徒の特性・習熟度を考慮した指導について・マイクロティーチング			
第12回：現任教員による講演（担当：未定）			
第13回：授業づくりについて（1）・教育実習に向けて（心構えと準備）			
第14回：授業づくりについて（2）・教育実習に向けて（直面しがちな問題と対策）			
第15回：これから先生になる人へ			
定期試験は実施しない。			

テキスト 中学校学習指導要領(平成29年告示 文部科学省) 高等学校学習指導要領(平成30年告示 文部科学省) 中学校学習指導要領解説 外国語編(平成29年告示 文部科学省) 高等学校学習指導要領解説 外国語編(平成30年告示 文部科学省)
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。
学生に対する評価 授業への積極的な参加(30%)、発表(40%)、レポート(30%)

授業科目名： 英語科指導法Ⅲ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 越智 健太郎
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
英語科指導法Ⅰで得た知識を発展させ、外国語教師として英語指導を行う際に必要な基礎知識を身につける。特に様々な英語教授法を確認し、第二言語習得を指導に生かす知識を養う。さらに、言語能力の測定と評価の方法を学び、教材の評価と作成する技能を身につけることを目標とする。			
【到達目標】			
・外国語教育の基礎知識を得ることができる。 ・英語教師として求められる基本的授業力を身につけることができる。 ・多様な英語教授法を学び実践できる。 ・言語能力の測定と評価ができる。 ・教材の分析、作成ができる ・他者と協同して問題に取り組むことができる			
授業の概要			
教科書の該当章及び配布資料を事前に読み、授業内でそれぞれの生徒としての経験に基づいた意見を発表しディスカッションを行う。指導法に関する回では、専門教科である英語の力を強化するために、指導法に関する英語のテキストを追加資料として読む。学期末課題として、検定教科書の1章を批判的に分析し、改善した教材を作成する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション、英語教育の目的について			
第2回：英語の国際化と日本の英語教育			
第3回：小学校における外国語活動・外国語科			
第4回：第二言語習得			
第5回：英語教授法			
第6回：リスニング指導			
第7回：スピーキング指導			
第8回：リーディング指導			
第9回：ライティング指導			
第10回：コミュニケーション能力の育成			
第11回：評価とテスト作成（1）：測定・評価の方法、分析方法			

第12回：評価とテスト作成（2）：テスト作成、表計算ソフトを用いた集計等

第13回：教科書と教材開発、ICTの活用

第14回：検定教科書の教材研究

第15回：教材研究の提出とその発表・振り返りの共有

テキスト

望月昭彦編（2018）『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』大修館書店

参考書・参考資料等

小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編（平成29年告示 文部科学省）

中学校学習指導要領 外国語編（平成29年告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編（平成30年告示 文部科学省）

その他必要に応じて、適宜、授業中に紹介する。

学生に対する評価

授業参加（貢献度）10%、毎回の課題50%、学期末課題とその発表40%

授業科目名： 英語科指導法Ⅳ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 越智 健太郎
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
英語科指導法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで得た知識を応用し、学習指導案を作成して模擬授業を行う。中学校、高等学校の学習到達目標に基づく指導案をTeaching for Understandingのフレームワークを用いて作成し、模擬授業を行う。			
【到達目標】			
・指導計画の知識を深め、よい授業案作成ができる。			
・模擬授業での経験を踏まえ、授業力を身につけることができる。			
・授業を批判的に分析することができる			
・他者と協同して問題に取り組むことができる			
授業の概要			
授業の分析方法及びTeaching for understandingのフレームワークを学び、英語科基礎演習で身につけた知識を用いて授業案の作成を行う。模擬授業では作成した指導案の一部を取り上げ、受講者を生徒と見立て授業を行う。模擬授業後は、振り返り及びフィードバックを受け、授業案、模擬授業の改善を行う。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション、授業分析の方法			
第2回：中学校を想定した授業案の作成：科目目標			
第3回：中学校を想定した授業案の作成：テーマ設定			
第4回：中学校を想定した授業案の作成：単元目標			
第5回：中学校を想定した授業案の作成：学習活動			
第6回：中学校を想定した授業案の作成：授業案			
第7回：中学校を想定した模擬授業1：			
受講生2，3名が模擬授業を行った後、クラスでフィードバックを行う			
第8回：中学校を想定した模擬授業2：			
受講生2，3名が模擬授業を行った後、クラスでフィードバックを行う			
第9回：中学校を想定した模擬授業3			
受講生2，3名が模擬授業を行った後、クラスでフィードバックを行う			
第10回：高等学校を想定した授業案の作成：科目目標、テーマ設定、単元目標			

第11回：高等学校を想定した授業案の作成：学習活動、授業案

第12回：高等学校を想定した模擬授業1

受講生2, 3名が模擬授業を行った後、クラスでフィードバックを行う

第13回：高等学校を想定した模擬授業2

受講生2, 3名が模擬授業を行った後、クラスでフィードバックを行う

第14回：高等学校を想定した模擬授業3

受講生2, 3名が模擬授業を行った後、クラスでフィードバックを行う

第15回：まとめ

テキスト

望月昭彦編（2018）「新学習指導要領にもとづく英語科教育法」大修館書店

参考書・参考資料等

小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編（平成29年告示 文部科学省）

中学校学習指導要領 外国語編（平成29年告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編（平成30年告示 文部科学省）

Blythe, T. (1999). *The Teaching for Understanding Guide (Jossey Bass Education Series)*. Jossey-Bass.

その他必要に応じて、適宜、授業中に紹介する。

学生に対する評価

授業参加（貢献度）10%、毎回の課題50%、マイクロティーチング40%

授業科目名： 日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 齊藤 小百合
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：もっと活かそう日本国憲法			
到達目標：			
1) 立憲主義について理解し、日本国憲法の条項に照らして、その特徴を具体的に述べる ことができる。			
2) 「憲法」という法は、何のために作られ、何を定めている法なのかを、近代立憲主義思想 を背景として理解したうえで、具体的に説明することができる。			
3) 自律的な市民・生活者として必要な「憲法リテラシー」を身につけ、自らの日常的な出来 事の中の問題を憲法問題として再構成することができる。			
授業の概要			
日本の最高法規である日本国憲法の基本構造、全体像および具体像について、理論的な観点だ けでなく、具体的な事例や課題に即して検討する。ともすれば遠い存在と受けとめられがちな 日本国憲法であるが、具体的事例を参照しつつ、日本国憲法と現実社会とが実際に関わってい ることを身近なところで理解することを試みたい。			
授業計画			
第1回：イントロダクションー授業ガイダンス			
第2回：法とは何か（教科書 第1部第1章・第2章10～19頁）			
第3回：憲法とは何か（教科書 第2部第1章110～113頁、補足資料）			
第4回：憲法と立憲主義～憲法はなぜ必要なのか（補足資料）			
第5回：日本国憲法はどのようにしてできてきたのか（教科書 第2部第2章114～117頁）			
第6回：平和主義（教科書 第2部第5章126～129頁、補足資料）			
第7回：国民主権・天皇制（教科書 第2部第3章・第4章118～125頁）			
第8回：権力分立の原理、国会と内閣（教科書 第2部第16章170-173頁）			
第9回：司法、刑事手続上の権利（教科書 第2部第15章、第17章166-169頁、174-177頁）			
第10回：「憲法上の権利」の主体、個人の尊厳・幸福追求権（教科書 第2部第6章130-133頁）			
第11回：法の下での平等（教科書 第2部第7章134-137頁）			
第12回：精神的自由権（教科書 第2部第8章138-141頁）			
第13回：表現の自由（教科書 第2部第9章142-145頁）			
第14回：生存権、教育と学問（教科書 第2部第11章、第12章150-157頁）			
第15回：まとめと振り返り			
テキスト			
松原・飯島・榎澤編著『はじめの一步 法学・憲法』現代人文社、2020年			
参考書・参考資料等			

齊藤小百合『打ち捨てられた者の「憲法」』いのちのことば社、2019年
長谷部・石川・穴戸編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』（第7版）有斐閣、2019年

学生に対する評価

リフレクション・ペーパー（20%）、中間テスト（30%）、小レポート課題（20%）、
確認テスト（30%）に基づいて判断する。

授業科目名： 体育		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 喜田 安哲
				担当形態： 単独
科 目		教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		体育		
授業のテーマ及び到達目標				
テーマ： 太極拳				
到達目標： ・套路「陳式簡易太極拳老架十勢」が順動作、逆動作で演武できる。 ・力みなく、柔らかく、連綿と動くことができる。 ・他者の動きに気づき、自身の動きを修正できる。 ・集団演武にて、仲間との調和の取れた演武ができる。				
授業の概要				
太極拳では、身心の緊張を解き、力を緩めて気持ちを静め、全身を伸び伸びと動かすことが求められます。太極拳がゆっくりと動くのは、その訓練のためです。日常生活では、早く、速く、急いで動くことが多く求められ、そのことで自ら身心を緊張させ、またそのことに気づくことはありません。この授業では、太極拳を通じて、知らず知らずのうちに緊張して動いている自身に気づき、能動的に緩めつつ、力まずに柔らかな安定した動きができるようになってもらいます。身心の緊張を緩めてゆっくりと動く訓練を積み重ねてゆくうちに、身体のバランス感覚が強化されていることにも気づくはずです。また、そのような身心の力みのない、バランスの取れた姿勢から放たれる動きは、武術としても驚くほどの効果を発揮します。本授業では、日本陳式太極拳学会の入門套路である「陳式簡易太極拳老架十勢」を指導します。				
授業計画				
第1回：イントロダクション・準備運動と基本動作（站樁ほか）の解説・套路の紹介				
第2回：準備運動・基本動作・套路（順動作）①〔01 予備式・02 右金剛搗碓〕				
第3回：準備運動・基本動作・套路（順動作）②〔03 懶扎衣・04 六封四閉〕				
第4回：準備運動・基本動作・套路（順動作）③〔05 単鞭・06 掩手肱拳〕				
第5回：準備運動・基本動作・套路（順動作）④〔07 撤身拳・08 青竜出水〕				
第6回：準備運動・基本動作・套路（順動作）⑤〔09 左金剛搗碓・10 収勢〕				
第7回：準備運動・基本動作・套路（順動作）の連綿動作・集団演武練習①				
第8回：準備運動・基本動作・套路（逆動作）①〔01 予備式・02 左金剛搗碓〕				
第9回：準備運動・基本動作・套路（逆動作）②〔03 懶扎衣・04 六封四閉〕				
第10回：準備運動・基本動作・套路（逆動作）③〔05 単鞭・06 掩手肱拳〕				
第11回：準備運動・基本動作・套路（逆動作）④〔07 撤身拳・08 青竜出水〕				
第12回：準備運動・基本動作・套路（逆動作）⑤〔09 右金剛搗碓・10 収勢〕				
第13回：準備運動・基本動作・套路（逆動作）の連綿動作・集団演武練習②				
第14回：準備運動・基本動作・套路（順逆動作）の連綿動作・集団演武練習③				
第15回：套路演武会（集団演武） ※集団演武：数人のグループで行う演武のこと				
テキスト				
なし				

参考書・参考資料等

陳 正雷 著（何 琳 訳・丸尾 尚代 監修）『新版 陳氏太極拳テキスト』ベースボールマガジン社

学生に対する評価

能動的な授業参加の態度〔リアクション・ペーパー含む〕（70%）／最終演武（30%）

授業科目名： 体育	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 加藤 みち代
			担当形態： 単独
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ： エアロビクスエクササイズをとおり、快適な日常生活を送るため運動習慣を身につける			
到達目標： ◎日常生活を快適に過ごす上で身体に負担のない正しい姿勢、その大切さを理解できる ◎運動によって得られる体力は行動体力・防衛体力があり、その相違を知る事ができる ◎全身運動として行うエアロビクスエクササイズを正しく動き、心肺持久力の向上、様々な筋肉の必要性を感じられる ◎シンプルな動きの積み重ねによって、巧緻性を必要とする複雑な動きを習得、達成感を感じる事ができる ◎動きのバリエーション・カウント変化が加わったエアロビクスの楽しさ・心地良いストレッチを系統だてて実施することで身体的・精神的な爽快さを実感できる ◎身体活動を習慣的に実施することで日常的に感じる不定愁訴が解消・軽減される事を実感できる ◎継続的な運動習慣により、疾病に対して抵抗力、免疫力を獲得できる			
授業の概要			
生活環境の変化による運動不足が叫ばれ、その影響が健康面、精神面に現れ、広く生活習慣病、成人病、メタボリックシンドロームとして知られている。これは運動不足解消で防止でき、医療費による経済的負担も軽減出来ると考えられる。運動習慣を身につけ、生涯快適な生活が出来る手段とすることを目的とし、更に、目に見えないストレス 等、精神的疲労の解消になることも期待する。様々な疾病に対する抵抗力、免疫力を維持、向上させることも運動習慣の効果となることも実感したい。 ＊板書したステップワークを振り返ること。不定愁訴解消、ストレス・疲労回復などのためストレッチングを授業以外で積極的に実践する ＊毎回の授業を通し、自らの身体に対して関心を持つ→自己観察			
授業計画			
授業形態は「身体に負担のない姿勢」を基本に毎回実技を行う。状況により、YouTube動画を活用することもある。			
第1回：体育（エアロビクス）授業の目的について「運動習慣の必要性和効果」 自己観察「正しい姿勢」 開眼・閉眼足踏み① ストレッチングのポイント①			
第2回：「運動不足」によるリスク・悪影響⇒生活習慣病・メタボリックシンドローム 自己観察「正しい姿勢」 開眼・閉眼足踏み② ストレッチングのポイント②			
第3回：摂取カロリー・消費カロリー（食事と身体活動）・人体の恒常性と水分補給 自己観察「正しい姿勢」 正面向き・横向き開眼・閉眼足踏み③ ストレッチングのポイント③			

第4回：効率的な有酸素運動に必要な時間・エアロビクスの基本的ステップ 『基本的なステップ名』①移動しないその場で行なうステップ、②アルファベット、動植物等の形を表すステップ、③縦方向横方向に移動を伴うステップ、④リズム変化、方向変化を伴うステップ、以上のように分類、①→④に難易度、巧緻性が増す。 ①マーチ・オープンマーチ・ステップタッチ・ダブルステップタッチ・ランジアップ（上下左右の重心移動）・ヒールカール（反復回数増減）・マンボステップ 第5回：適正体重について「BMI」（体重）÷（身長×身長） BMI=22 自己観察 BMI計算 ②V・A・Y・X ステップ・グレープバイン・ボックスステップ 第6回：体力の違い 行動体力（身体活動・スポーツ活動）と防衛体力（免疫力・抵抗力） ③ステップニー・グレープバイン・シャッセ 第7回：正しい姿勢に最低限必要な筋力強化 エアロビクススッテップリズム8カウントを習得する ④6 マンボビハインド・マンボターン（ピボットターン）・シンコペーション・グレープバイン・シャッセ 第8回：コリオグラフィー マーチ・オープンマーチ・ステップタッチ・オープンマーチ・ランジアップ 体幹トレーニング（腹筋・背筋群） 第9回：第8回のコリオグラフィー復習・腕の動きを加える 体幹トレーニング（腹筋バリエーション・背筋群バリエーション） 第10回：コリオグラフィー マーチ・ステップタッチ・ダブルステップタッチ・マンボステップ・Vステップ・カール・グレープバイン 体幹トレーニング（内・外転筋群・クランプ） 第11回：第10回のコリオグラフィー復習確認・腕の動きを加える 体幹トレーニング（クランプバリエーション・立位バランス） 第12回：コリオグラフィー マーチ・ステップタッチ・グレープバイン・ボックスステップ・ステップニー・シャッセ・Aステップ・カール（1・1・2）*V・A・Y・Xステップ入替 体幹トレーニング（腹斜筋・臀筋群・立位バランス） 第13回：第12回のコリオグラフィー復習確認・腕の動きを加える *シャッセ→縦シャッセ *カールの後に6 マンボビハインドを加える 体幹トレーニング（総合・上腕筋群・バランス） 第14回：第15回：コリオグラフィー 90°方向変化（グレープバイン・シャッセ）・リードフットワーク左右チェンジ（奇数の法則） 総合体幹トレーニング→負担のない正しい姿勢	テキスト なし
参考書・参考資料等 『イラストでわかるストレッチング マニュアル』（大修館書店） 『はじめてのエアロビクス DVD付』（大修館書店）	

『ボブ・アンダーソンのストレッチング』（ブックハウス・エイチディ）

『JAFA機関誌 ヘルスネットワーク』（JAFA会員のみ）（公益社団法人日本フィットネス協会（JAFA））

学生に対する評価

平常点：授業への積極的な参加度（70%）、

実技に取り組む姿勢（TPOに合った服装・履物の着用も含む）（30%）

見学した場合は授業内容を見学レポートとして提出。最低出席率 70%を原則とする

授業科目名： 学外体育	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 稲本万里子
			担当形態： 単独
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：キャンプ（春学期集中授業）組織キャンプをとおり、自然の中で楽しみながら、役に立つスキルや知識、態度を身につける。 到達目標：1）集団生活の中で自分が分担した役割を果たすことができる。 2）野外生活技術を身につける。 3）体験の楽しさを知る。 4）自然に近い環境の中で危険を回避する術を身につける。			
授業の概要 夏季休暇期間中に、長野県野尻湖畔の東京YWCA野尻キャンプ場で3泊4日の集中授業として行う。 キャビンと呼ぶ宿舎を使用し、自然観察やアーチェリー、カナディアン・カヌー、水泳等を体験する。食事は通常、専門のスタッフの調理したものが提供されるが、プログラムの一環のとして野外料理実践をおこなう。自然に近い環境での共同生活を通して、全人的成長を目指すという目的で計画されたプログラムと、組織的な指導及び運営のもとで実施する。 生活に必要な清掃等（Duty）も参加者が行う。 ☆6月または7月に説明会を行うので、出席すること。●参加費は42000円程度を予定。 精神的にも身体的にも健康であるためには、人と人とはもちろん、環境と人との良好な関係が必要である。自然との接し方、人間関係の在り方を知り、「より良く過ごすこと」を学ぶ。			
授業計画 夏季休暇中の集中授業（3泊4日）として実施 1日目：キャンプ場到着後、開会礼拝、オリエンテーション、キャンプサイト巡り 講義「キャンプの安全と健康」「便利なロープワーク」 2日目：選択プログラム①（水泳、アーチェリー、クラフトなど） 講義「野外生活技術論」「レクリエーション理論と実践」、実践「野外料理」 選択プログラム②（水泳、アーチェリー、クラフト、ボート、カヌー） 3日目：選択プログラム③（水泳、アーチェリー、クラフト、ボート、カヌー） 講義「キャンプと自然」、クロージングファイヤー 4日目：講義「キャンプ概論」、まとめ			
テキスト			
授業内で適宜配布			
参考書・参考資料等			
『キャンプ指導者入門』（日本キャンプ協会）			
学生に対する評価			

認定科目のため、成績段階はない。Duty（生活に必要な清掃）をきちんと行い、プログラムに参加することをもって単位を認定する

授業科目名： 学外体育	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 稲本万里子
			担当形態： 単独
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：ウィンタースポーツのスキー並びに共同生活を通じて、心身の健康と身体活動の実践及び安全への知識・技術・態度を身につける。			
到達目標：			
・スキーを通じて、心身ともに安全で健康な生活のしかた、共同生活の重要性を学ぶ。			
・スキースキルの理解と向上をすることによってスポーツの楽しさを実感する			
・安全に雪上でのスポーツをする技術を身につける			
・集団生活を共にすることで、人と人とが協調すること互いの意見や考えを様々な場面においてよりよい解決へと導くためのスキルを身につける			
・人と人とのコミュニケーション能力、対人関係構築能力の理解および向上をめざす			
・検定（全日本スキー連盟公認の技能級）の合格。			
授業の概要			
長野県菅平高原スキー場(予定)で実施する体育としてのスキーキャンプ。春季休暇中に3泊4日の集中授業で行う。スキーの講習（理論と実技）が主なプログラムである。			
組織キャンプの形態をとっており、専門の指導者の下で一定の目的のため、あらかじめ準備されたプログラムを行う。スキー技術の向上のほか、理論特に健康管理や安全面についても学ぶ。また、集団での共同生活そのものも大切なプログラムとなっている。			
スキーの技術指導は、全日本スキー連盟（SAJ）公認の指導員により行われる。			
参加履修者を対象に、12月上旬に事前説明会を行う。			
授業計画			
春季休暇中の集中授業（3泊4日）として実施			
1日目：スキー場到着後スキー準備（レンタル類配布）			
スキー講習①（ゲレンデ集合、グループ分け含む）			
グループミーティング			
2日目：スキー講習②、スキー講習③			
講義「ウィンタースポーツにおける安全と健康」			
3日目：スキー講習④、スキー講習⑤			
グループミーティング（検定に向けて）			
4日目：スキー検定（全日本スキー連盟公認の技能級検定）、振り返りシート作成、検定講評・まとめ			
テキスト			
授業内で適宜配布			
参考書・参考資料等			
『SAJ資格検定受検者のために』（山と溪谷社）			

学生に対する評価

- ・プログラムへの積極的な参加（60点）
- ・集団生活の中での自己の役割の取り方及びまとめレポート課題（20点）
- ・スキー技能（20点）
- ・スキー技能はもちろん積極的な講習およびプログラムの参加を重視します。

授業科目名： 学外体育	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 稲本万里子
			担当形態： 単独
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ： 救急法救急員認定 到達目標：日本赤十字社救急法救急員の資格を取得する。			
授業の概要 日本赤十字社の各支部が実施する学外での救急法救急員養成普通科講習を受講し、「赤十字救急法救急員」資格を取得します。各自で講習の実施時期・場所等を最寄りの日本赤十字社支部に問い合わせ、受講すること。 (資格の概要) 基礎講習では、手当の基本、人工呼吸や心臓マッサージの方法、AED（自動体外式除細動器）を用いた除細動などを習得。 救急員養成講習では、日常生活における事故防止や止血の仕方、包帯の使い方、骨折などの場合の固定、搬送、災害時の心得などについての知識と技術を習得。			
授業計画 日本赤十字社の各支部が指定する日程および会場で、救急法救急員養成普通科講習を受講。 ◆基礎講習（4時間） ・傷病者の観察の仕方および一次救命処置 ・心肺蘇生、AEDを用いた除細動、気道異物除去など救急法の基礎 ◆救急員養成講習（10時間） ・急病の手当 ・けがの手当て（止血、包帯、固定） ・搬送および救護 ・修了検定			
テキスト 『赤十字救急法基礎講習読本』（日赤サービス） 『赤十字救急法講習読本』（日赤サービス）			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 日本赤十字社の各支部が実施する学外での救急法救急員養成普通科講習の認定証の提示により1単位を認定する。			

授業科目名： 英語 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： Germain Mesureur、 Ken Fujioka
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：自信を持って英語を使えるようになる			
到達目標：1) experience successful learning of important and useful English skills; 重要かつ有用な英語スキル学習の成功体験を経験する。			
2) learn a variety of ways to study English skills independently. 自主的に英語スキルを学習するための様々な方法を習得する。			
授業の概要			
週 2 回の授業を 2 名の教員が 1 回ずつ担当する。			
このクラスでは、リスニング（多聴と精聴）、スピーキング、リーディング（多読と精読）、ライティングの 4 つの言語スキルを扱う。これには、リーディング、リスニング、語彙習得、発音に関する自主学習が含まれる。			
このクラスの目的は以下の通り。			
1) 基礎的な英語の 4 スキルを身につける			
2) 自主学習を行うスキルを身につける			
3) 第 2 言語で活動を行い、その成功体験を積み重ねる			
授業計画			
Week 1：オリエンテーション、教室内の学習コミュニティー構築			
Week 2：スチューデントハンドブックの説明および活用方法			
Week 3：自主学習教材 English Central の紹介 (リスニング、発音、スピーキング、ボキャブラリー)			
Week 4：自己紹介の発表原稿の作成と発表			
Week 5：自主学習教材 New General Service List の紹介と活用方法 (基礎的な語彙を増やす)			
Week 6：図書館紹介と多読のすすめ			
Week 7：短いプレゼンテーションの作成			
Week 8：短いプレゼンテーションの発表			
Week 9：中間評価：Learning Log のフィードバック			

Week 1 0 : パブリック・スピーキングの方法 ; スピーチコンテストの準備開始 Week 1 1 : パラグラフの書き方 Week 1 2 : リーディング (創立者河井道の物語) Week 1 3 : スピーチコンテストの練習 Week 1 4 : ヘレン・ドルトンパブリックスピーキングコンテスト Week 1 5 : スピーチコンテストのフィードバック、自主学習を継続するためにできることの紹介
テキスト Student Handbook 2023, Center for English Education and Research, Keisen University, 2023. (恵泉オリジナルテキスト) English Central (オンライン自主学習教材) Penguin Readers series
参考書・参考資料等 New General Service List (http://www.newgeneralservicelist.org/)
学生に対する評価 積極的な参加・貢献 (30%) 、 振り返り・学習記録 (25%) 、 スピーチの準備・練習・発表 (15%) 、 宿題・課題など継続的な学習 (30%)

授業科目名： 英語Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： Ken Fujioka 常葉美穂
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：自律した語学習者・英語使用者をめざす			
到達目標：学生は重要な英語スキルの知識と使い方をさらに向上させ、現在の英語能力をより深く理解し、これらのスキルを自主的に向上させることができるようになる。			
授業の概要			
週 2 回の授業を 2 名の教員が 1 回ずつ担当する。			
このクラスでは、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの 4 つの言語スキルを扱う。特にリーディング、リスニング、語彙習得、発音などは自主学習にも取り組む。			
このクラスの目的は以下のとおり。			
1) 重要かつ有用な英語スキルの学習を継続して成功させること			
2) 英語を自主的に学習するスキルを身につけること			
事前・事後活動について			
・ English Central（オンラインビデオ教材）を用いて、各 Unit の Video Journal 以外の回で扱った内容に関連した動画を視聴し、単語学習、発音練習等を行う。			
・ 多読活動：図書館で貸出可能な Graded Reader を読み、Mreader のサイトで読解問題を答える。			
・ テキストに付随しているオンライン教材を予習・復習として行う。			
・ 毎授業、新たに学んだ事、疑問に思ったこと、詳しく調べたいこと等を記録する。			
学習記録は第 8 回と第 15 回目に回収し確認・フィードバックを行う。			
授業計画			
Week 1：オリエンテーション・教科書や使用教材の紹介			
Week 2：Unit 2 A：文化による自己紹介の違い			
異なる文化による自己紹介の違いを確認し、日本人のやり方についてディスカッションする。			
Week 3：Unit 2 B：英語で初対面の人と雑談をする			
会話における雑談を聞き、その特徴についてディスカッションする。			
Week 4：Unit 2 C：会話を始める			

会話を始める表現を学び、ロールプレイを行う。

Week 5 : Unit 2 D : 消滅危機言語

消滅危機に瀕している言語についての文章を読む。

Week 6 : Unit 2 E : 具体例の紹介の仕方

英作文における具体例の提示の仕方を学び、任意の事柄について具体例を交えた説明文を書く。

Week 7 : Unit 2 Video Journal : 消滅危機言語の辞書

消滅危機に瀕しているネイティブアメリカン言語の 1 つ Wukchumni の辞書を作成している人のドキュメンタリー映像を視聴し、消滅言語保護についてディスカッションする。

Week 8 : Unit 4 A : 健康維持について

体の部位の語彙を学習し、健康維持の方法についてディスカッションする。

Week 9 : Unit 4 B : 健康なライフスタイル

健康維持するための方法を聞き、自分が行っている方法を発表する。

Week 10 : Unit 4 C : 自然療法について

日常的な軽い病気の語彙を学び、それを直す自然療法に関して学ぶ。自分が知っている自然療法の方法についてディスカッションする。

Week 11 : Unit 4 D : ポジティブ思考の効能

前向きな態度が体に与える影響に関する文章を読む。

Week 12 : Unit 4 E : アイディアを詳細に説明する

英作文における、主張を補強する説明文で使用する表現を学び、健康維持の方法に関する文章を書く。

Week 13 : Unit 4 Video Journal : 限界を超えて

障害を越えてプロスノーボーダーとして活躍している選手の TED トークを視聴し、人生の障害を乗り越えることで得られるインスピレーションについてディスカッションする。

Week 14 : 課題発表準備

今までの人生で最も大きかった障害について説明し、どの様にそれを乗り越えたのかを発表する準備を行う。

Week 15 : 課題発表と評価、フィードバック

課題発表を行い、学生及び教員からのフィードバックを行う。

テキスト

Johannsen, K. L. and Chase, R. T. (2020). *World English 2 third edition*. National (Student Book with Online Workbook).

Geographic Learning

English Central (オンライン自主学習教材)

参考書・参考資料等

図書館で貸出可能な Penguin Graded Reader Series

学生に対する評価

Active participation and contribution – 30% Reflection / Learning Log / E-learning – 20%

Continuous assessment - homework, projects, etc – 50%

積極的な授業への参加と貢献（30%）、振り返り・学習記録・E-ラーニング（20%）、
宿題・課題などの継続的な学習の評価（50%）

授業科目名： 英語Ⅲ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 常葉美穂 生田裕二
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：アカデミック英語を理解する能力を有している学習者および使用者をめざす 到達目標：重要な英語スキルの知識と使用法をさらに発展させ、現状の英語能力のより深い理解、個々人が自律した学習者として必要な言語と言語スキルを身に着け、大学での勉強に英語を使うことに自信を持つことができるようになる。			
授業の概要			
週 2 回の授業を 2 名の教員が 1 回ずつ担当をする。 このクラスでは、大学における英語の学習と使用に焦点を当て、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの 4 つの言語スキルを扱う。授業内容、活動、課題、および評価は、学生の学問的、社会的、個人的なニーズと興味を反映する。 英語Ⅲの 3 つの主要なクラスレベル（Support、Regular、Challenge）では、教科書『World English』とオンライン教材を使って時事問題や現代に生きる人々が直面する課題を扱う。 このクラスの目的は以下のとおり。 1) 英語スキルを使用し成功体験を継続する。 2) 学問的および個人的に必要な学習内容を、個人で勉強するスキルを身に付ける。 3) 大学での勉強や英語による講義科目で扱うような英語に慣れる。			
事前・事後活動について			
・ English Central（オンラインビデオ教材）を用いて、各 Unit の Video Journal 以外の回で扱った内容に関連した動画を視聴し、単語学習、発音練習等を行う。 ・ テキストに付随しているオンライン教材を予習・復習として行う。 ・ 毎授業後、新たに学んだ事、疑問に思ったこと、詳しく調べたいこと等を記録する。 学習記録は第 8 回と第 15 回目に回収し確認・フィードバックを行う。			
授業計画			
Week 1：オリエンテーション。教科書や使用教材の紹介。			
Week 2：Unit 6 A：異なるライフステージについて			
過去完了に焦点を当てた文章を読み、自分の人生を変えた出来事について話し合			

う。

Week 3 : Unit 6 B : 何かをするのに最適な年齢について

物事を行う上で最適な年齢についての会話を聞き、その出来事に賛成か反対か表明しディスカッションを行う。

Week 4 : Unit 6 C : 追加の情報を得るための質問の仕方

年齢を表す形容詞・副詞を用いて、知り合いの説明文を書く。

Week 5 : Unit 6 D : テクノロジーのもたらした変化について

アフリカで起きたイノベーションに関する文章を読む。

Week 6 : Unit 6 E : あなたにとって重要な変化について

人生の転機について話し合う。時系列を表す語句を学ぶ。自分にとって最も大きな転換点について、時系列を表す語句を用いて文章を書く。

Week 7 : Unit 6 Video Journal : 地球規模の問題について統計を使って可視化する

予習で視聴した TED トークに関してディスカッションを行い、自分の人生に最も大きな変化をもたらした機器に関して発表を行う。

Week 8 : Unit 8 A : 結果について話す。

気候変動に関する文章を読み、仮定法現在を学ぶ。

Week 9 : Unit 8 B : 未来の問題を解決する方法

クロマグロの乱獲に関するラジオ番組の一部を聞き、持続可能な漁業に関してディスカッションを行う。

Week 10 : Unit 8 C : 状況の説明

南アフリカの動物保護団体に関する文章を読み、様態の副詞を学ぶ。身近な動物保護団体を調べ、発表する。

Week 11 : Unit 8 D : 保護プロジェクトについて

海洋生物の保護活動に関する文章を読む。

Week 12 : Unit 8 E : 動物の保護問題を説明する

マインドマップを作製し動物の保護に関する問題について説明する文章を書く。

Week 13 : Unit 8 Video Journal : 動物保護について

大型ネコ科動物の保護に関する TED トークを視聴し、自分たちができることに
関してディスカッションを行う。

Week 14 : 課題発表準備

Unit 8 で扱った動物の保護をテーマに、絶滅危惧種や絶滅の恐れのある動物を
1 種選び、リサーチをする。その動物がなぜその様な状況に陥り、どの様な保護
活動が行われ、このままだとどうなってしまうのかをパワーポイント等の視覚教
材を用いて発表する準備を行う。

Week 15 : 課題発表と評価、フィードバック

課題発表を行い、学生及び教員からのフィードバックを行う。

テキスト

Johannsen, K. L. and Chase, R. T. (2020). <i>World English 2 third edition</i> (Student Book with Online Workbook) . National Geographic Learning English Central (オンライン自主学習教材)
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 積極的な授業参加と貢献 (30%)、振り返りや学習記録・E ラーニング (20%)、宿題・課題など継続的学習の評価 (50%)

授業科目名： 英語Ⅳ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 生田裕二 越智健太郎
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：学業や日常生活で英語を学び、使用する			
到達目標：重要な英語に関する知識とスキルの向上、現状の英語能力のより深い理解、 個々人が自律した学習者として必要な言語と言語スキルを身に着ける、生活の 様々な分野で英語を使用することに自信を持つことができるようになる。			
授業の概要			
このクラスでは、大学における英語の学習と使用に焦点を当て、リスニング、スピーキング、 リーディング、ライティングの 4 つの言語スキルを扱う。授業内容、活動、課題、および評価 は、学生の学問的、社会的、個人的なニーズと興味を反映する。			
英語Ⅳの 3 つの主要なクラスレベル（Support、Regular、Challenge）では、教科書『World English』とオンライン教材を使って時事問題や現代に生きる人々が直面する課題を扱う。			
このクラスの目的は以下のとおり。			
1) 英語スキルを使用し成功体験を継続する。			
2) 学問的および個人的な必要な学習内容を、個人で勉強するスキルを身に付ける。			
3) 大学での勉強や英語による講義科目で英語を使用する自信をつける。			
事前・事後活動について			
・ English Central（オンラインビデオ教材）を用いて、各 Unit の Video Journal 以外の回で 扱った内容に関連した動画を視聴し、単語学習、発音練習等を行う。			
・ テキストに付随しているオンライン教材を予習・復習として行う。			
・ 毎授業後、新たに学んだ事、疑問に思ったこと、詳しく調べたいこと等を記録する。			
学習記録は第 8 回と第 15 回目に回収し確認・フィードバックを行う。			
授業計画			
Week 1：オリエンテーション 教科書や使用教材の紹介、勉強法の紹介			
Week 2：Unit 10 A：旅行の計画を立てる			
旅行に関する語彙を確認し、旅行の計画についてディスカッションする。			
Week 3：Unit 10 B：様々な種類の旅行について			
旅行に関する話を聞き、ユニークな旅について知り、自分はどの様な旅に行きたい			

かをディスカッションする。	
Week 4 : Unit 10 C : 空港で英語を使う	空港で使用する英語表現を学び、ロールプレイを行う。
Week 5 : Unit 10 D : 旅行の効能について	旅行のメリットに関する文章を読む。
Week 6 : Unit 10 E&Video Journal : 文化的なイベントについて考える。	様々な国の文化的イベントを読み、それらのアートの価値をディスカッションする。
Week 7 : Academic Writing : 地元のお祭り	国外の旅行者に対して、地元のお祭りを説明する文章を書く。
Week 8 : Unit 12 A : お祝い事を説明する	世界の新年のお祝いに関する文を読み、日本の新年のお祝いを説明する。
Week 9 : Unit 12 B : 様々な国の祝日	様々な国のお祝いを聞き、類似点と相違点を比較する。
Week 10 : Unit 12 C : 祝福のことば	祝福の言葉を学習し、祝福を述べる状況の違いについてディスカッションする。
Week 11 : Unit 12 D : 儀式について	結婚式や子供の誕生に関するお祝いの歴史についての文章を読む。
Week 12 : Unit 12 E : 祝日について意見を述べる	祝日に関する意見を、賛成・反対の立場から発表する。
Week 13 : Unit 12 Video Journal : 文化の変遷	歴史的に男性のみの参加が許されていたメキシコのお祭りに、初めて参加した女性についてのビデオを視聴し、ディスカッションする。
Week 14 : 課題発表準備	伝統的に男女で分けられている事柄に関してリサーチをし、賛成・反対の立場からプレゼンテーションを行う準備をする。
Week 15 : 課題発表と評価、フィードバック	課題発表を行い、学生及び教員からのフィードバックを行う。
テキスト	
Johannsen, K. L. and Chase, R. T. (2020). <i>World English 2 third edition</i> . (Student Book with Online Workbook))	
National Geographic Learning	
English Central (オンライン自主学習教材)	
参考書・参考資料等	
なし	
学生に対する評価	
クラスへの積極的な参加と貢献 (25%)、振り返り・学習記録 (25%)、アカデミックライティング・プレゼンテーション (25%)、宿題・課題など継続的学習の評価 (25%)	

授業科目名： I T スキル I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 二宮 千佐加 糠谷 祥子 原山 智重子
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：ICTリテラシー(基礎)及びPC基本操作の習得 到達目標： ・PCの基本的な操作を理解し活用できる。 ・インターネットを使った情報社会への参加において、安心・安全・主体的な活用ができる。 ・ワープロソフト(Microsoft Word)を使用した文書を作成できる。 ・表計算ソフト(Microsoft Excel)を使用したデータ処理の基礎を理解し活用できる。 ・プレゼンテーションソフト(Microsoft PowerPoint)を使用し効果的なスライドを作成できる。			
授業の概要 情報化社会の様々な場面において必須となっている、コンピュータおよびインターネットの活用に関する基本的な能力の養成を目標とした全学科必修科目です。大学でのレポート作成・口頭発表・論文作成といった学業の場面、会社での報告書作成やデータ処理といった仕事の場面において重要な手段として活用されている、ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの基本操作について、講義・実習を通して解説し、それらの基本操作の習得を目的とします。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（講義概要、@K、Keisen Web Mail、学内ネットワークの利用） 第2回：Keisen Web Mailの送受信と利用時のマナー・ルール 第3回：PCの基本操作（ウィンドウ操作、文字入力、キーボードタイピング、ファイルの管理） 第4回：ワープロソフト(Microsoft Word)の基本操作（1） 第5回：ワープロソフト(Microsoft Word)の基本操作（2） 第6回：ワープロソフト(Microsoft Word)の基本操作（3） 第7回：ワープロソフト(Microsoft Word)の基本操作（4） 第8回：表計算ソフト(Microsoft Excel) の基本操作（1） 第9回：表計算ソフト(Microsoft Excel) の基本操作（2） 第10回：表計算ソフト(Microsoft Excel) の基本操作（3） 第11回：表計算ソフト(Microsoft Excel) の基本操作（4） 第12回：プレゼンテーションソフト(Microsoft PowerPoint)の基本操作（1） 第13回：プレゼンテーションソフト(Microsoft PowerPoint)の基本操作（2） 第14回：プレゼンテーションソフト(Microsoft PowerPoint)の基本操作（3） 第15回：総まとめ			

テキスト なし
参考書・参考資料等 『情報リテラシー入門編＜改訂版＞』 エフエムオー出版
学生に対する評価 下記3点を総合的に評価 1.授業参加：50% 2.課題提出：30% 3.期末試験：20%（授業時間の3分の2以上の出席で受験可）

授業科目名： I T スキルⅡ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 二宮 千佐加 糠谷 祥子 原山 智重子
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：ICTリテラシー（基礎）及びPC基本操作の習得			
到達目標：			
・身近なインターネットサービスの事例を知るとともに、適切に利用することができる ・AIやIoTなどインターネットに関する新しい技術やサービスの概要を理解できる ・スマートフォンやパソコンなどの情報機器や、情報機器を動かすソフトウェアの概要を理解し、自ら選択して利用 することができる ・プログラミングの基本について理解することができる ・インターネットを利用するための接続環境や通信技術の概要について理解し、その活用ができる ・インターネット利用のための基本的なアプリケーションであるWeb、電子メールの仕組みを理解できる ・インターネット利用時における情報セキュリティの重要性を理解し、アプリケーションなどのアップデートやマルウェアへの対策などができる ・インターネットに関連した代表的なトラブルなどの事例を知り、自分を守るために必要な対策を理解し、実践することができる ・万一のトラブル時には、必要に応じて周囲に助けを求めることや、ヘルプデスクなどへの状況説明（エスカレーション）ができる ・マナーやプライバシー、知的財産権などを守りながら、インターネットを利用することができる			
上記目標に到達することにより、最終的には、就職活動で評価される資格である「ドットコムマスター ベーシッ ク」を取得できるだけの知識やスキルを身に付けることができる。			
授業の概要			
情報化社会の様々な場面において必須となっている、コンピュータおよびインターネットの活用に関する基本的な能力の養成を目標とした全学科必修科目です。 インターネットを安心・安全に利用するにあたり、最低限必要な知識（技術的背景、仕組みの理解、モラル等）を学習、理解することにより、ICTリテラシーの習得を目的とします。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション（講義概要・講義進め方・評価方法等）			
第2回：身近なインターネットサービス			
第3回：インターネットの利用 1			
第4回：インターネットの利用 2			
第5回：インターネットの利用を支える技術 1			

第6回：インターネットの利用を支える技術 2 2

第7回：インターネットの利用を支える技術 3

第8回：インターネット接続 1

第9回：インターネット接続 2

第10回：インターネット接続 3

第11回：セキュリティ 1

第12回：セキュリティ 2

第13回：インターネットをとりまく法律とモラル 1

第14回：インターネットをとりまく法律とモラル 2

第15回：総まとめ

テキスト

『インターネット検定.com Master BASIC 公式テキスト』（NTTコミュニケーションズ）

参考書・参考資料等

必要に応じて紹介する

学生に対する評価

下記3点を総合的に評価

1.授業参加：50%

2.課題提出：20%

3.期末試験：30%（授業時間の3分の2以上の出席で受験可）

授業科目名： 教育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 岩佐 玲子
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標			
教育とは何か、教育はなぜ必要かについて問い、考えを深めることがこの授業の目的である。 ここでの到達目標は①教育に関する様々な思想、教育制度、教育の歴史などについて基本的な知識を持つことであり、②現在の教育の実態や課題を、社会的背景との関係から偏りなく理解し、教育の本質や意義について自己の教育観を再構築することである。			
授業の概要			
この科目では①教育を支える理念、思想、②教育実践、教育課程、指導方法、③背景的な社会状況の3つの側面から教育を理解し、現在の教育とこれからの教育に関する様々な論点について自ら考える力をつけることを目的としている。そのために教育思想と教育史を軸として、教育に関する一般的知識を身につけ、現代の学校や家庭教育、社会教育における課題を歴史的な視点から理解できるようにする。			
授業計画			
第1回：教育とは何か 教育の必要性			
第2回：教育の歴史と思想（古代から18世紀までの欧米の教育）			
第3回：教育の歴史と思想（古代から江戸時代までの日本の教育）			
第4回：近代教育制度の成立と展開（欧米）			
第5回：近代教育制度の成立と展開（日本）			
第6回：教育をめぐる現代的課題（社会と子ども）			
第7回：教育をめぐる現代的課題（家庭と子ども）			
第8回：教育をめぐる現代的課題（学校と子ども）			
第9回：教師という存在（教員の歴史）			
第10回：子ども理解と道徳教育（道徳教育の歴史）			
第11回：子どもの人権と教育（いじめ、スクールカースト、体罰など）			
第12回：特別ニーズ教育（配慮を必要とする子どもたちの教育）			
第13回：学校と地域社会			
第14回：不登校と学校以外の教育の場			
第15回：社会の中の学校～家庭、職場、地域との関係			
定期試験			

テキスト

内海崎貴子編著『教職のための教育原理』八千代出版 2017年

参考書・参考資料等

その都度提示、配布する。

学生に対する評価

定期試験60% 毎回の授業での小レポート40%

授業科目名： 教職概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 岩佐 玲子
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む）。		
授業のテーマ及び到達目標			
教職課程履修の入門的科目として、教職の意義や教員の役割について理解し、教師に求められる資質・能力、職務内容について理解することを目標とする。具体的な到達目標は①教育制度や教員養成のしくみなど、教員をとりまく制度的事項の基本を身につけ、②チーム学校運営への対応も含めた教員の職務内容や服務義務について理解し、③学校や教員の置かれた現状についても正確に把握し、教職への意欲を高めることである。			
授業の概要			
この授業の目的は、現代社会における教育の課題を意識しながら、教職の意義、教員の役割、教員に求められる資質・能力、研修の意義や学職務内容について理解することである。そのために、教職の歴史や教師の置かれた状況を知り、持続可能な未来の担い手を育てる教師の役割についても考える。そのために地域の学校での教員の取り組みを見学したり、ロールプレイなどを含めたワークショップも組み入れたりながら、組織的に諸課題に対応する協働する力や学び続ける姿勢の重要性を理解する。			
授業計画			
第1回：教師とは何か（教職の意義）			
第2回：教員養成制度と教員免許制度			
第3回：教員の研修および教員の任免と服務			
第4回：初等・中等教育と教員			
第5回：管理職・主任の役割			
第6回：教師の仕事と職場環境			
第7回：学級担任の仕事			
第8回：教職の歴史			
第9回：現代社会の課題と学校・教師			
第10回：教師の役割としての進路指導			
第11回：教師に求められる資質・能力			
第12回：持続可能な未来のための教師論			
第13回：持続可能な地域社会における学校			
第14回：チーム学校運営への対応			

第15回：今日の学校教育と教職の社会的意義

定期試験

テキスト

広岡義之『はじめて学ぶ教職概論』ミネルヴァ書房 2017年

諏訪哲郎監修『持続可能な未来のための教職論』学文社 2018年

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

定期試験50% 発表と小レポート50%

授業科目名： 教育制度論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 岩佐 玲子
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
この授業は、持続可能な未来のために、教育制度をどのように捉え、学校と地域との連携や学校安全にどう対応していくかについて考えながら教育制度に対する理解を深めることである。具体的には、①公教育が成立した歴史的意義について理解し、②日本の教育制度に戦後日本の教育理念がどのように反映されているかを考える。さらに、③教育制度と教育実践との関連や学校と地域との連携をはじめとする現代的課題について理解する。			
授業の概要			
憲法をはじめとする諸法とそれらに基づく教育制度について、具体的なことがらに即して学ぶため、授業の前半では学校体験を振り返りながら、日本の教育法のしくみと教育制度が子どもの権利とどのように関連しているかを学ぶ。後半では現代の課題（いじめ・不登校、子どもの貧困、教員の多忙化、学校の危機管理）などについて考えながら教育法規と照らし合わせたり、地域の教育委員会事務局を訪問したりして、教育行政の仕組みについて体験的に学ぶ。			
授業計画			
第1回：教育制度を学ぶことの意味（自身の教育体験と制度の関係を見出す）			
第2回：子どもの権利（子どもの権利条約における教育の意味）			
第3回：教育法のしくみ（教育制度の法律主義と不文法）			
第4回：教育課程の編成と教育内容の制度（教育内容と法的根拠）			
第5回：公教育の原理（日本国憲法と教育基本法：戦前と戦後の教育理念の違い）			
第6回：公教育の原理（教育の目的と目標：教育基本法）			
第7回：義務教育の制度（義務と権利の関係と義務教育制度の基礎）			
第8回：学校の制度（学校教育法）			
第9回：教育の機会均等の理念と子どもの貧困			
第10回：教職員の専門性と地位を担保する制度			
第11回：学校運営のしくみ（地域に開かれた学校）			
第12回：学校運営のしくみ（安全管理と事故対応）			
第13回：教育行政の制度（教育委員会制度の理念と仕組み）			
第14回：教育行政をめぐる課題（日本と諸外国の教育事情、教育改革）			
第15回：持続可能な未来への教育制度について考える			

定期試験
テキスト 小玉敏成他著『持続可能な未来のための教育制度論』学文社 2018年 『教育省六法』学陽書房 2022年
参考書・参考資料等 川口洋誉・中山博之編著『未来を創る教育制度論（改訂版）』北樹出版 2014年 授業中に適宜資料を配布する。
学生に対する評価 定期試験60% レポート40%

授業科目名： 発達心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 丸橋 亮子
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標			
【授業のテーマ】			
人間の発達について学び、発達に応じた働きかけや支援の視点を理解する			
【到達目標】			
①発達の捉え方、人間の発達の特徴について理解し、説明することができる。			
②人間のさまざまな側面の発達の特徴及び学習の特徴について理解し、説明することができる。			
③発達理解に基づいて、他者への働きかけ方や発達及び学習の支援を考え、実際の支援についてイメージをもつことができる。			
④発達の過程の中にある自身を見つめ、発達理論との関連性の中で考えを記述することができる。			
授業の概要			
人間の生涯発達について学び、発達に関する様々な理論や発達の捉え方を理解する。認知や社会性、言語、運動など領域ごとの発達について理解し、発達理解に基づいた他者への働きかけ方や発達及び学習の支援を考えていく。授業内ではいわゆる定型発達だけでなく発達障害についても触れ、発達の多様性について視野を広げる。また、発達理論との関連性を意識しながら発達の過程の中にある自身を見つめ、他者と関わる自身についても理解を深める。			
講義形式が中心であるが、ワーク、映像の視聴も予定している。予習として、シラバスを見て関連する書籍を読んだり、ニュースや新聞等の関連記事を意識し、発達や発達支援、教育に関する動向に目を向けたりしながら授業に臨んでほしい。また、専門用語も多く出てくるため、復習として板書や配布資料を見直し内容を確実に理解することが望ましい。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション 発達心理学とは／発達・学習の支援における発達理解の意義			
第2回：発達を規定するもの―一人間の発達の特徴―			
第3回：人間の発達① 胎児期～学童期			
第4回：認知の発達			
第5回：自己の発達			
第6回：社会性の発達			
第7回：言葉とコミュニケーションの発達			

第8回：運動と遊びの発達

第9回：道徳性の発達

第10回：発達理解に基づく発達・学習の支援①学習の理論／記憶と動機づけ

第11回：発達理解に基づく発達・学習の支援②主体的な学びの支援と評価の視点

第12回：人間の発達② 成人期～老年期

第13回：私たちの「発達」（レポート課題あり）

第14回：発達障害と発達支援

第15回：学びのまとめ

定期試験：記述式で実施する（評価の割合は30%）。

テキスト

特になし／毎回授業のレジュメ及び資料を配布する

参考書・参考資料等

杉原一昭・新井邦二郎・大川一郎・藤生英行・濱口佳和・笠井仁『よくわかる発達と学習』福村出版（1996）

坂上裕子・山口智子・林 創・中間玲子『問いからはじめる発達心理学—生涯にわたる育ちの科学』有斐閣（2014）

新井邦二郎編著『図でわかる発達心理学』福村出版（1997）

今井むつみ『学びとは何か—＜探求人＞になるために』岩波新書（2016）

星山麻木編著『障害児保育ワークブック インクルーシブ保育・教育をめざして』萌文書林（2019）

学生に対する評価

平常点（ワークへの参加やコメントシート）50%、レポート20%、期末試験30%

授業科目名： 特別支援教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 岩佐 玲子
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標			
多様なニーズのある幼児、児童および生徒の理解と支援について学ぶことがこの授業の目的である。具体的には、①インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育の制度の理念や仕組みを理解し、②特別支援学校、特別支援学級、通級による指導の教育方法と教育内容を学び、③合理的配慮や基礎的環境整備の在り方、交流および共同学習の進め方などについても理解を深める。さらに④障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童および生徒の学習や生活上にどのような困難があり、どう対応すべきかについても考えることが目標である。			
授業の概要			
まず特別支援教育の定義、法令、制度の変遷を学び、次に多様なニーズとはどのようなニーズをさすかを考えながら発達障害、愛着形成の課題、認知面の課題や母国語や貧困の問題も視野に入れて理解する。次に特別支援学校、特別支援学級、通級による指導の方法と内容、特徴についても学ぶ。さらに、特別支援コーディネーターや関係機関、家族などとの連携の重要性と支援体制の構築について理解を深める。そのために、地域の特別支援学校や特別支援学級で参観実習や補助を行ったり、重度心身障害者療育センターに訪問したりするなどを重ね、共生社会の実現や人権についても洞察を深めるための体験活動を組み入れ、合理的配慮の具体例や関係機関との連携の仕組み、必要な支援方法を理解する。			
授業計画			
第1回：特別支援教育とは何か（あゆみ・定義・法令・制度）			
第2回：多様なニーズのある幼児児童生徒の理解と支援（発達障害、認知面の課題、母国語、貧困）			
第3回：特別支援学校の指導の内容と特色			
第4回：特別支援学級と通級による指導の教育内容と特色			
第5回：知的障害のある幼児児童生徒の理解			
第6回：発達障害のある幼児児童生徒の理解			
第7回：肢体不自由、視覚障害、聴覚障害、病弱幼児児童生徒の理解			
第8回：学習障害のある幼児児童生徒の理解			
第9回：様々なニーズをもつ幼児児童生徒の理解			
第10回：通級指導と自立活動			
第11回：個別の指導計画と個別の教育支援計画			

第12回：貧困等の問題により特別の教育的ニーズのある幼児児童生徒の理解

第13回：インクルーシブ教育システムの構築に向けた展開（合理的配慮・基礎的環境整備・交流や連携の在り方）

第14回：特別支援教育コーディネーターの役割と特別支援学校のセンター的機能の活用

第15回：一人ひとりの持てる力を高め、困難を改善・克服するための適切な指導のありかたを考える

定期試験

テキスト

文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編』開隆堂

文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編』開隆堂

参考書・参考資料等

廣瀬由美子・石塚謙二（編著）『特別支援教育（アクティベート教育学7）』ミネルヴァ書房

学生に対する評価

定期試験60% レポート40%

授業科目名： 道徳教育の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 谷口 稔
			担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳の理論及び指導法		
授業のテーマ及び到達目標 <テーマ>道徳とは何か <到達目標>道徳の授業ができる力を身につける。			
授業の概要 道徳で教える内容を説明し、道徳の歴史を学び、実際に、学生が模擬授業を行う。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：中学校の道徳の内容として、(A) 自分自身に関すること、(B) 他の人との関わりに関することを取りあげ、学校における道徳教育で、自分自身に関すること、他の人との関わりが いかに重要であるか、その指導の必要性を理解させる。 第3回：中学校の道徳の内容として、(C) 自然や崇高なものとの関わりに関すること、(D) 集団 や社会との関わりに関することをとりあげ、学校における道徳教育で、いかに重要であるか その指導の必要性を理解する。 第4回：「ともに生きる」というビデオを見て、人は一人では生きていくのではなく、よりよい人間 関係づくりをしていくことを目指す。「ともに生きる」というテーマは、多様な指導方法 があることを理解させ、実際に教壇に立った時に、授業設計のモデルとなることを学ぶ。 第5回：日本における道徳の歴史（江戸時代） 士農工商の身分制社会を、新渡戸稲造の『武士道』を参考にして、その中で成り立っていた 義、礼、忠などの徳目を学ぶ。 第6回：日本における道徳の歴史（明治～第二次世界大戦まで） 明治以降、四民平等の社会になり、新渡戸稲造は、武士道から平民道という表現を用いたが この時代の道徳教育がいかなるものであったのかを学ぶ。 第7回：日本における道徳の歴史（戦後） 教育基本法の制定過程を学び、時代に即した道徳はいかにあるべきかを考える。 第8回：道徳と他の科目との相違に着目し、いかに学んでいくのかを考える。その際、道徳科の特性 を踏まえた学習評価方法についても理解させる。 第9回：ソクラテスから学ぶ徳 無知の知からスタートするソクラテスの徳を考察する 以下、第10回から第13回は、NHKティーチャーズ・ライブラリーの中から道徳にふさわしい番組を			

学生が選び、その教材をもとに、学生が模擬授業をし、ディスカッションする。

第10回：学生の発表とディスカッション（1）自分自身に関すること

「妻へ飛鳥へそしてまだ見ぬ子へ」のビデオを観て、32歳でガンで亡くなった医師の人生をたどり、自分自身の生き方を考える。

医師の生涯、患者さんに対する医師の熱意など、道徳科の学習指導案を作成させる。

模擬授業の実施と振り返りを通して、授業改善について視点を身に着けさせる。

第11回：学生の発表とディスカッション（2）他の人との関わりに関すること

「家族ではないけれど」のビデオを見て、血のつながりのない人との連帯をテーマに考える。

「家族ではないが忘れられない思い出のある人」をあげ、学習指導案を作成させる。

模擬授業の実施と振り返りを通して、授業改善について視点を身に着けさせる。

第12回：学生の発表とディスカッション（3）自然や崇高なものとの関わりに関すること

「急増する野生動物」のビデオを見て、人間と野生動物の生息域の変化から、人間と自然との関係を考える。

「急増する野生動物」のビデオを見て、学習指導案を作成させる。

模擬授業の実施と振り返りを通して、授業改善の視点を身に着けさせる。

第13回：学生の発表とディスカッション（4）集団や社会との関わりに関すること

「なにを優先するの？優先席」のビデオを見て、優先席が導入された経緯や社会における席の譲り合いが自然に行われるためにはどうしたらよいかを考える。

「優先席」のビデオを見て、学習指導案を作成させる。

模擬授業の実施と振り返りを通して、授業改善について視点を身に着けさせる。

第14回：今後に求められる日本の道徳教育のあり方

現代社会で顕著になっているSNSの使い方など、現代特有の問題を考える

第15回：まとめと定期試験

テキスト

授業でプリントを配布

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領 道徳編（平成29年告示 文部科学省）

江島顕一『日本道徳教育の歴史』ミネルヴァ書房

島田四郎『道徳教育の研究』玉川大学出版部

学生に対する評価

授業での発表、リアクションペーパー、定期試験等で総合的に評価する

授業科目名： 総合的な学習・特別活動の指導法（教育課程論を含む）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 神山 直子 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	総合的な学習の時間の指導法 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。） 特別活動の指導法		
授業のテーマ及び到達目標			
① 教育課程の意義や編成方法、カリキュラム・マネジメントの意義についての理解 ・学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解している。 ・教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法を例示することができる。 ・カリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解している。 ② 総合的な学習の時間の指導計画の作成及び指導方法と評価に関する知識・技能の習得 ・総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割について理解している。 ・各学校の目標及び内容を定める際の考え方や留意点を理解している。 ・各教科等との関連を図りながら作成した年間指導計画の具体的な事例を理解している。 ・主体的・対話的で深い学びを実現する単元計画の具体的な事例を理解している。 ・探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立てを理解している。 ・学習状況に関する評価の方法及び留意点を理解している。 ③ 学校教育全体における特別活動の意義の理解及びその特質を踏まえた知識・素養の習得 ・目標及び主な内容、教育課程上の位置付けと各教科等との関連を理解している。 ・学級活動・ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事の特質を理解している。 ・教育課程全体で取り組む指導の在り方を理解している。 ・取組の評価及び改善・充実を図るための活動の重要性を理解している。 ・合意形成に向けた話し合い活動、集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。 ・家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。			
授業の概要			
教育課程の意義や編成の方法を理解したうえで、今日の学校教育における総合的な学習（探究）の時間や特別活動の意義と役割について理解を深める。総合的な学習の時間では、教科等で育まれた知識や技能を活用し、多面的・多角的に考察して課題を解決する力を育成するとともに、自己の在り方や生き方を考えていく資質・能力を育む指導計画の作成や指導・評価の方法等について学ぶ。特別活動に関しては、その実践に向けて学級活動・ホームルーム活動、生徒会活動や学校行事、また地域貢献			

活動、さらには自己の進路実現に向けた体験活動等の特質を考察することを通して、実践的な指導力の育成を目指す。

授業計画

- 第1回：学校教育における教育課程が有する役割・機能・意義の理解
- 第2回：教科・領域を横断して教育内容を選択し、教育課程に配列する方法
- 第3回：カリキュラム・マネジメントの意義や重要性についての理解
- 第4回：総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割
- 第5回：各学校の総合的な学習の時間の目標及び内容を定める際の考え方や留意点
- 第6回：各教科等との関連を図った総合的な学習の時間の年間指導計画
- 第7回：主体的・対話的で深い学びを実現する総合的な学習の時間の単元計画
- 第8回：探究的な学習を実現するための具体的な手立て
- 第9回：総合的な学習の時間の学習状況に関する評価の方法及び留意点
- 第10回：特別活動の目標及び主な内容、教育課程上の位置付けと各教科等との関連
- 第11回：学級活動・ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事の特質
- 第12回：教育課程全体で取り組む特別活動の指導の在り方
- 第13回：特別活動におけるPDCAサイクル
- 第14回：合意形成に向けた話し合い活動、集団活動の意義や指導の在り方
- 第15回：家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方

テキスト

- 中学校学習指導要領 解説総則編（平成29年告示 文部科学省）
- 中学校学習指導要領 解説総合的な学習の時間編（平成29年告示 文部科学省）
- 中学校学習指導要領 解説特別活動編（平成29年告示 文部科学省）

参考書・参考資料等

- 高等学校学習指導要領 解説総則編（平成30年告示 文部科学省）
- 高等学校学習指導要領 解説総合的な探究の時間編（平成30年告示 文部科学省）
- 高等学校学習指導要領 解説特別活動編（平成30年告示 文部科学省）

学生に対する評価

授業への参加姿勢（40%）、課題（30%）、最終レポート（30%）を基に総合的に評価する。

授業科目名： 教育方法論（ICT活用含む）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 水上 晃実 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法（1単位以上修得）		
授業のテーマ及び到達目標			
情報に関して倫理的態度をもって安全に配慮する規範意識のもと、ICT技術を活用しながら効果的な教育方法を実践できる力を養成することを目的とする。			
授業の概要			
情報機器等を効果的に活用したコミュニケーション能力・情報の創造力・発信力・科学的思考力・判断力等を育成し、生徒自身が情報化社会に積極的かつ主体的に参画できる能力・態度を身につけ、ICT活用指導力を総論的に修得できるよう、その方法をインストラクショナルデザインの原理を用いながら学ぶ。			
授業計画			
第1回：ガイダンスおよびイントロダクション（教育方法の基礎的理論と実践について）			
第2回：効果的な教育システムの設計について			
第3回：生徒の資質・能力を育成するための教育方法について			
第4回：学級・生徒・教員・教室・教材など授業を構成する基礎的な要件について			
第5回：学習評価の考え方について			
第6回：話法、板書等、授業を行う上での技術（教師のスキル）について			
第7回：情報通信ネットワークやメディアの特性・役割・情報モラルについて			
第8回：情報モラルを含んだ情報活用能力を育成するための指導法について			
第9回：情報通信技術の活用の意義と理論について			
第10回：特別支援を必要とする生徒に対する情報通信技術の活用と意義およびICT支援員や大学等の外部機関との連携、ICT環境の整備の在り方について			
第11回：情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務推進の在り方およびデジタル教材の作成・利用の理論と実施方法について（教育情報セキュリティの重要性の理解を含む）			
第12回：遠隔・オンライン教育の意義や関連するシステムの使用法および情報通信技術を効果的に活用した校務の推進について			
第13回：基礎的な学習指導理論およびICTの活用を踏まえた指導案および授業PPTの作成			
第14回：第13回で作成した学習指導案およびPPTの発表および情報通信技術を活用した教育の理論及び方法についての総括的確認			

第15回：講義全体の振り返りと到達目標の確認および最終指導案とPPTの発表と提出。
定期試験は実施しない。

テキスト

C.M.ライゲルース, B.J.ビーティ, R.D.マイヤーズ 編 鈴木克明 監訳 2020 『学習者中心の教育を実現するインストラクショナルデザイン理論とモデル』 北大路書房

R.M.ガニエ, W.W.ウェイジャー, K.C.ゴラス, J.M.ケラー 著 2007 『インストラクショナルデザインの原理』 北大路書房

参考書・参考資料等

鈴木克明 著 2002 『教材設計マニュアル』 独学を支援するために 北大路書房

J.M.ケラー 著 鈴木克明 監訳 2011 『学習意欲をデザインする』 -ARCSモデルによるインストラクショナルデザイン- 北大路書房

鈴木克明 著 2020 『インストラクショナルデザインの道具箱101』 北大路書房

稲垣 忠 著 2020 『教育の方法と技術』 主体的・対話的で深い学びをつくるインストラクショナルデザイン 北大路書房

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）、高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）、高等学校学習指導要領解説 情報編（平成30年7月 文部科学省）

学生に対する評価

模擬授業用学習指導案および授業資料（PPT、板書案、授業用プリント等）の提出（60%）

模擬授業用学習内容の発表（40%）

授業科目名： 生徒指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 神山 直子
			担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
① 生徒指導の意義と原理			
・教育課程における生徒指導の位置付けを理解している。			
・各教科・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の意義や重要性を理解している。			
・集団指導・個別指導の方法原理を理解している。			
・生徒指導体制と教育相談体制それぞれの基礎的な考え方と相違点を理解している。			
② 生徒全体への指導			
・学校の指導方針及び年間指導計画に基づいた組織的な取組の重要性を理解している。			
・基礎的な生活習慣の確立や規範意識の醸成等、日々の生徒指導の在り方を理解している。			
・生徒の自己の存在感が育まれるような場や機会の設定の在り方を例示することができる			
③ 個別の課題を抱える個々の生徒への指導			
・校則・懲戒・体罰等の生徒指導に関する主な法令等の内容を理解している。			
・暴力行為・いじめ・不登校等の課題の定義及び対応の視点を理解している。			
・インターネットや性の問題、児童虐待等の課題の定義及び対応の視点を理解している。			
・専門家や関係諸機関との連携の在り方を例示することができる。			
授業の概要			
生徒指導は、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われ、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付けることを目標とする。			
個別の課題を抱える個々の生徒への指導については、受講生が主体的に選択した課題について、情報収集・学修成果の発表・協議等を積極的に取り入れ、アクティブラーニングのスタイルを推進する。			
授業計画			
第1回：教育課程における生徒指導の位置付け			
第2回：各教科・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の意義や重要性			
第3回：集団指導・個別指導の方法原理についての理解			

第4回：生徒指導体制と教育相談体制それぞれの基礎的な考え方と相違点

第5回：学校の指導方針及び年間指導計画に基づいた組織的な取組

第6回：基礎的な生活習慣の確立や規範意識の醸成

第7回：生徒の自己の存在感が育まれるような場や機会の設定

第8回：校則・懲戒・体罰等の生徒指導に関する主な法令等

第9回：暴力行為の定義及びその対応

第10回：いじめの定義及びその対応

第11回：不登校の定義及びその対応

第12回：今日的な生徒指導上の課題（インターネット）への対応

第13回：今日的な生徒指導上の課題（性の問題）への対応

第14回：今日的な生徒指導上の課題（児童虐待）への対応

第15回：専門家や関係諸機関との連携

テキスト

生徒指導提要（平成22年3月 文部科学省）

※現在、生徒指導提要の改訂が進められている。改訂版が示された場合は、改訂点を比較しながら両者をテキストとして活用する。

参考書・参考資料等

社会の情勢等を踏まえ随時提供する

学生に対する評価

授業への参加姿勢（40%）、課題（30%）、最終レポート（30%）を基に総合的に評価する。

授業科目名： 教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 道又 紀子
			担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
教育相談についての基礎知識・関連技法・喫緊の課題について学び、実習を通じて自分の身につける			
授業の概要			
教育相談の基礎知識を知るとともに技法に関して実際に身につくようワークやグループディスカッションをおこなう			
授業計画			
第1回：教育相談とは—歴史と役割—			
第2回：教育相談にかかわる発達の基礎—幼児期の課題—			
第3回：教育相談にかかわる発達の基礎—児童機期の課題—			
第4回：教育相談にかかわる発達の基礎—青年期の課題—			
第5回：教育相談の喫緊の課題（いじめ・自死・ヤングケアラー等）			
第6回：カウンセリングの基礎知識			
第7回：カウンセリングの技法とその実際			
第8回：技法を習得するためのロールプレイ・ワーク			
第9回：事例を通して考えるグループディスカッション（いじめ・SNSをめぐる問題）			
第10回：事例を通して考えるグループディスカッション（発達障害・摂食障害）			
第11回：学校教育に取り入れられる様々な心理療法			
第12回：エゴグラム・SCTを使った実習			
第13回：スクイグル・描画を使った実習			
第14回：学内外の連携と教育相談計画			
第15回：まとめ			
テキスト			
生徒指導提要（平成22年3月 文部科学省）			
参考書・参考資料等			
日本学生支援機構『教職員のための障害学生支援ガイド』平成26年度改訂版			
川瀬正裕他 2001年『これからの心の援助』ナカニシヤ出版			

学生に対する評価

授業内ワークへの参加度 40 %、小レポート 20 %、学期末レポート 40 %

授業科目名： 進路指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 生田 裕二
			担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
中学校・高等学校における進路指導・キャリア教育の内容や意義について学び、その充実に向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身につける。			
授業の概要			
中学校・高等学校における進路指導・キャリア教育の意義、現状、課題などについて事例を交えて講義する。また、受講生も自らの受けた進路指導の経験を発表し、与えられた事例に対して自分が教員であったならどのような進路指導を行うか、などの演習も行う。さらに、現在教育現場で進路指導に当たっている教員を招待し、お話を伺う。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション、進路指導・キャリア教育の意義及び理論について（1）中学校編			
第2回：進路指導・キャリア教育の意義及び理論について（2）高等学校編			
第3回：中学校におけるガイダンスとしての進路指導（学校全体として）			
第4回：中学校におけるガイダンスとしての進路指導（学級担任・教科担当・進路指導部として）			
第5回：高等学校におけるガイダンスとしての進路指導（学校全体として）			
第6回：高等学校におけるガイダンスとしての進路指導（学級担任・教科担当・進路指導部として）			
第7回：自身の受けた進路指導ガイダンス・事例に基づくガイダンス演習（発表）			
第8回：中学校におけるカウンセリングとしての進路指導			
第9回：高等学校におけるカウンセリングとしての進路指導			
第10回：カウンセリングとしての進路指導の実例紹介、カウンセリング演習（発表）			
第11回：学級担任としての進路指導について			
第12回：教科担当・部活動顧問としての進路指導について			
第13回：進路指導部としての進路指導について			
第14回：現任教員による講演（担当：未定）			
第15回：まとめ			
定期試験は実施しない。			
テキスト			
新井邦二郎，他著『進路指導（教職シリーズ7）』培風館（1700円＋税）			

参考書・参考資料等

飯野哲朗著『事例で読む，生き方を支える進路相談』図書文化（1800円＋税）

学生に対する評価

授業に対する積極的な参加度（30％）、発表（30％）、レポート（40％）

シラバス：教職実践演習

シラバス： 教職実践演習(中・高)		単位数： 2単位	担当教員名： 岩佐 玲子		
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数 15人					
教員の連携・協力体制					
多摩市教育長はじめ指導主事や現職教員をゲストスピーカーに招き、講演と座談会をおこなう。また、介護等体験先の障害者施設や特別支援学校とも連携し、インクルーシブ教育についての学びを再度深める。さらに、幼児期から青少年期までの切れ目ない支援の重要性を体感するために、近隣の保育園とも連携・協力体制を図り、保育園実習を通して、人の成長に立ち合うことで自らも成長できる教職の意義を捉え直し、支援者としての資質と能力を高められる環境を整えている。					
授業のテーマ及び到達目標					
教育に対する情熱と使命感をもち、生徒と共に学びつつ成長しようとする謙虚な姿勢と前向きな行動力によって社会人基礎力を磨くことを目標とする。そのために①教師としての傾聴力と伝達力を磨き②社会性や人間関係能力を伸ばし、③生徒理解と学習指導力ならびに組織人としての協働力を高める。					
そのために、話し方や聴き方のワークショップや、場面指導のトレーニングを行う。また、公平かつ受容的に人と接することで保護者や地域の人々と良好な人間関係を築くことができるよう、地域の各種行事やボランティアに参加し、そこでの学びを、ICTを使ってプレゼンテーションすることで自己省察とPDCAサイクルの定着を図る。これによって、一歩踏み出す力、考え抜く力、協働する力をさらに成長させ、豊かな資質を備えた学び続ける教師としての土台を完成させる。					
授業の概要					
はじめに履修カルテを元にこれまでの実践や学びを振り返り、学びや課題を整理して、一人ずつICTを活用してプレゼンテーションを行う。その講評や振り返りを元にグループ討論やロールプレイングを行って批判的思考力と論理的思考力を養う。さらに、学校現場や保育園、福祉施設の見学実習を行い、幼児児童生徒理解、学級経営についてのグループ討論を行ったり、教育委員会からのゲストスピーカーを招いて座談会を開いたりするなかで、言語的表現力を高める。そして、フィールドワークを多く取り入れ、教育の当事者としての意識を確実なものとする。学校や施設等でのフィールドワークを行う度に報告書を書き発表することを通して、知識と体験を言語化し、人に伝えてさらに新たな気づきを得るというサイクルの中で、教師としての資質と技能を養い、実践力に繋げるための自信となるようよう指導する。					

授業計画

- 第1回：オリエンテーション（担当：教職課程運営委員会全員）
- 第2回：履修カルテおよび教育実習の振り返り（1）学習指導についてグループ討論
- 第3回：履修カルテおよび教育実習の振り返り（2）生徒指導についてグループ討論
- 第4回：教職の意義や教員の役割に関する学びについてのグループ討論
- 第5回：児童生徒理解に関するワークショップ（ロールプレイングと傾聴の技法）
- 第6回：保護者対応、地域の関係者との人間関係の構築について多摩市教育委員会ゲストスピーカーによるワークショップ
- 第7回：児童生徒理解や学級経営についての講義 多摩市現職教員によるワークショップ
- 第8回：学校現場の見学（多摩市立中学校）児童生徒理解と教師の発問、受容的態度
- 第9回：学びの振り返り（プレゼンテーションとグループ討論）
- 第10回：保育現場の参観実習（多摩市内保育園）
- 第11回：学びの振り返り（プレゼンテーションとグループ討論）幼児理解と共感的態度
- 第12回：教科内容等の指導力についての講義・グループ討論
- 第13回：特別支援学校の授業見学（東京都立多摩桜の丘学園）
- 第14回：学びの振り返り（プレゼンテーションとグループ討議）多様性と人権
- 第15回：教師の資質能力についてのまとめ

テキスト

『生徒指導提要』（平成22年3月 文部科学省）「教職課程履修カルテ」

参考書・参考資料等

適宜提示・配布する。

学生に対する評価

プレゼンテーション60% 毎回の振り返りミニレポート40%

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。